

平成29年第4回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成29年12月1日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	平成29年12月11日 午前9時30分			議 長 田 口 好 秋	
	散会	平成29年12月11日 午後2時28分			議 長 田 口 好 秋	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	生 田 健 児	出	10番	山 口 政 人	出
	2番	宮 崎 良 平	出	11番	芦 塚 典 子	出
	3番	川 内 聖 二	出	12番	大 島 恒 典	出
	4番	増 田 朝 子	出	13番	梶 原 睦 也	出
	5番	森 田 明 彦	出	14番	田 中 政 司	出
	6番	辻 浩 一	出	15番	織 田 菊 男	欠
	7番	山 口 忠 孝	出	16番	西 村 信 夫	出
	8番	田 中 平 一 郎	出	17番	山 口 要	出
	9番	山 下 芳 郎	出	18番	田 口 好 秋	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	谷口 太郎	子育て支援課長	大久保 敏郎
	副市長	中島 庸二	市民協働推進課長	筒井 八重美
	教育長	杉崎 士郎	文化・スポーツ振興課長	小池 和彦
	総務企画部長	辻 明弘	福祉課長	染川 健志
	市民福祉部長	中野 哲也	農林課長	横田 泰次
	産業建設部長	宮崎 康郎	うれしの温泉観光課長	井上 元昭
	教育部長 教育総務課長兼務	大島 洋二郎	うれしの茶振興課長	宮田 誠吾
	会計管理者 会計課長兼務	池田 秋弘	建設・新幹線課長	早瀬 宏範
	総務課長 選挙管理委員会事務局長兼務	永江 松吾	環境下水道課長	副島 昌彦
	財政課長	三根 竹久	水道課長	中村 はるみ
	企画政策課長	池田 幸一	学校教育課長	徳永 丞
	税務収納課長	小國 純治	監査委員事務局長	
	市民課長	小森 啓一郎	農業委員会事務局長	白石 伸之
	健康づくり課長	諸井 和広		
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	田中 秀則		

平成29年第4回嬉野市議会定例会議事日程

平成29年12月11日（月）

本会議第4日目

午前9時30分 開議

日程第1 一般質問

順次	通告者	質問の事項
1	増田朝子	1. 嬉野医療センター跡地利活用について 2. 公共交通について 3. こどもセンターについて 4. 「市民の声」への対応について
2	宮崎良平	1. 自然災害の対策について 2. 住民の安全確保について 3. 嬉野市の未来について
3	山口要	1. 嬉野市の市政運営について

午前9時30分 開議

○議長（田口好秋君）

皆さんおはようございます。

本日は織田菊男議員が欠席であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

4番増田朝子議員の発言を許します。増田朝子議員。

○4番（増田朝子君）

皆さんおはようございます。議席番号4番、増田朝子でございます。

今期最後、16回目の質問になります。議員必携にもございますが、住民全体の福祉向上と地域社会の活力ある発展、このことは私なりに解釈しますと、この地域に住んでよかった、毎日が地域の皆さんと笑顔で生活できると感じてもらえることだと思います。議員としては、まず日ごろから市民とのコミュニケーションが大切であり、信頼関係を築き、そのやりとりの中から市民の方の生活の声を聞くこと、そしてその声を市政に届けることと思います。これまで私なりに取り組んできたつもりですが、任期満了まであとわずかとなり、次につなげ

るためにもこの4年間をしっかりと振り返って検証していきたいと思えます。

それでは、ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い一般質問をいたします。

今回の質問は大きく4つ、1点目は嬉野医療センター跡地利活用について、2点目は公共交通について、3点目はこどもセンターについて、4点目は市民の声への対応についてです。

まず、1点目の嬉野医療センター跡地利活用についてです。

平成31年5月には嬉野温泉駅周辺に嬉野医療センターが移設の予定です。市民の皆さんが注目している嬉野医療センター跡地利活用の問題、今年度3月議会ではこれまで庁舎内で検討してきましたが、手詰まり感があり、実績のある専門家、コンサルに入ってもらい、今年度で方向性を決めたいと当初予算に432万円の予算が計上されました。

そこでお伺いいたします。嬉野医療センター跡地利活用基礎調査業務の進捗状況をお尋ねいたします。

あとの質問と再質問は質問席からさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

皆さんおはようございます。それでは、増田朝子議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、嬉野医療センター跡地利活用基礎調査業務の進捗状況をというところでございます。

嬉野医療センター跡地の有効利用を図るため、土地や建物等の状況を把握し利活用の可能性を検討、整理することを目的に本年度、嬉野医療センター跡地利活用基礎調査業務を進めておるところでございます。具体的には、嬉野医療センターから建物等の現状に関する資料を提供していただき、民間事業者へのヒアリングを実施したほか、近隣の類似施設の視察を行っているところでございます。今後は対話を行いまして、民間事業所のノウハウを生かした活用案を検討していくことにしておるところでございます。

以上で嬉野医療センター跡地利活用についてのお尋ねのお答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それでは、再質問をさせていただきます。

まず、担当課にお伺いいたしますけれども、嬉野医療センターの移転は平成31年5月の予定ですけど、間違いございませんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

平成31年5月の予定でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それでは、次にこの移転に関する提携ですけれども、いつ提携をされたのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前9時36分 休憩

午前9時37分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

平成25年度でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

以前お聞きしていたんですけど、平成25年5月という御答弁があっていました。

それで、今現在平成29年、4年間もたっているんですけども、その間、本当に市民の方が一番注目されている医療センター跡地の利活用の問題なんですけれども、これまでこの4年間どういった検討をされてこられたのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

医療センターの移転後、利活用につきましては、庁内検討委員会を設けまして、企画、建設・新幹線課、財政、そういう関連の課が集まりまして検討をずっとしてきておりました。その中には県庁の方も招聘いたしまして、御意見あたりを伺ってきたところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

平成31年5月には医療センターが移転します。あと2年後なんですけれども、それに対して今後の跡地の利活用の問題、ちょっと余りにも準備が遅いんじゃないかなと思うんですけれども、でも当初予算で調査業務ということで上がっていたんですけれども、その中でちょっと細かくお尋ねしていきますけれども、大きく2つ、跡地利用活用基礎調査と開発事業者等ヒアリングとあります。その中で、1番、現状の把握、2番、関連計画の整理、市民ニーズの整理、参考事例の整理、優位性と課題の整理、まちづくりの方向性の検討とありますけれども、これらの調査を行われた進捗状況をお尋ねします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

まず、現医療センターの建物、いつ建てられて、どういう状況なのか、その調査を行いました。その後、開発業者あたりの意見聴取も医療センター含めて数社、民間の事業者から意見を聞いて、あと視察あたりも行ったところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、細かくいろいろ業務内容が上げられていたんですけれども、例えば、市民ニーズの整理とか優位性とか課題とかというのはどういった検討をされたんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

優位性につきましては、医療センターの位置ですね、インターに近いとか、あと温泉街に近いとか、そういう優位性ですね。そういうのを確認したところでございます。

以上です。（「市民ニーズはどうなんですか」と呼ぶ者あり）

市民ニーズにつきましては、アンケートを実際とったところはございませんけれども、総合計画のアンケート調査なりで、その中でも市民の方から意見あたりは出ておりましたので、そのあたりから拾っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ただいま意見が出ておりますということですが、こういった意見が出ておりましたでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

やはり医療センターの跡地、増田議員が御発言されましたように、非常に注目が高いというところで、市民のためになるような施設、そういう御意見が多かったような記憶がございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それでは、ただいまの民間業者の方との御意見をということなんですけれども、その前に、じゃ現状はどんな、例えば取り壊しとかいうお話もありますけれども、現状、建物自体はどんなというのが調査で出ておりますでしょうか。現状使えるかどうかというのは。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

耐震あたりを一番心配しておったんですけれども、耐震にひっかかるような建て物はございませんでした。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今後、今年度調査ということですが、今後どういう方向性でどういうふうな形で跡地利用のことを進められていく予定なんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

今予定をしておりますのは、サウンディング調査といって、民間事業者との対話方式による調査、これはなぜ行うかというのは、市長答弁にありましたように、民間事業者のノウハウを活用して幅広く意見をもらうという対話方式によるサウンディング調査を実施する予定でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今、民間業者との対話方式による調査ということなんですけれども、じゃ来年度の予定なんですか。今後、何年間のうちにどういう計画を立てて、方向性としていつまでに結果を出すとかという計画はございませんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

先ほど言いましたサウンディング調査につきましては、今年度実施をする予定でございます。

あとにつきましては、できたら合併特例債を活用したいという思いがございます。これは施設、建物、どういうものを建てるかによりけりなんですけれども、この合併特例債の期限が平成32年度までとなっておりますので、できるだけ早く方向性を示していければと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ちょっと整理いたしますと、では、現在の建物は耐震としてはそのまま使えるかもしれないということなんですけれども、じゃ民間の方との対話のサウンディングをされてということなんですけれども、その方向性のいかんによっては今の建物の取り壊しということも考えられるということで認識していいですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

場合によっては一部建て壊しも出てくるかもしれません。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

計画としてわかりましたけれども、これらのことを今現在進行中の嬉野小学校跡地に体育館と公民館が建設中なんですけれども、それに対しても市民の方は何が建っているのかわからないし、途中経過というか、そういうのを知らせてほしい、市報とかでもお知らせはされているのかなと思うんですけれども、そのときに市民に対して、例えば嬉野地区、塩田地区、そういう報告会みたいなのをぜひしていただきたい。途中でどういう方向性というか、それを市民の方にお示しいただきたいんですけれども、その点はいかがでしょうか。途中で報告、例えば、今回サウンディングが行われた後にある程度方向性が決まったところで、どういう方向性でどういうふうに建てかえとか利活用をしようというのを市民の方に対して会場を使って説明会というのをしていただきたいんですけど、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

機会を見ながら、そういう場を設けていければと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ぜひしていただきたいんですけれども、このことに対して市長はいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今、担当課長が申しあげましたように、機会を捉えながら説明会等もしていきたいと思えます。ただ、私どもはよその自治体と比較しましても議決事項その他につきましては、議会の皆さん方も議会報告会もしておられますし、また私ども広報のほうもやっておりますので、情報については幅広くお伝えできているんじゃないかなと思いますけど、今それが不足しているという言葉でございますので、そこらについてはまた加えて何かいい方法があれば、広報するについてはやぶさかではありませぬので、いろんなことを研究してまいりたいと思

ます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今の御答弁のように、本当に市民の皆さんは今回のうれしの茶交流館に関しても、どのような、何が建っているのかわからないという方もいらっしゃいます。嬉野小学校跡地に関してもわからない方がいらっしゃいますので、ぜひ広報に関していろんな形で市民の方に向けてしていただけたらと思います。

それでは、次に移らせていただきます。次は公共交通についてお尋ねいたします。

こちらは現在、3つの形態で公共交通が市民の皆さんに提供していただいているわけなんですけれども、まず3つの形態、生活交通路線と廃止路線代替バス、それと地域公共交通活性化協議会という3つの形態になっておりますけれども、まずそのことについて1つずつお伺いしたいと思いますけれども、まず生活交通路線とはどういうものなのかと、それに対して課題と対策をお伺いいたします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

生活交通路線につきましては、こちらでいうと武雄市－嬉野市－彼杵間を走っている線でございます。複数の市町をまたがって走っているのがこの生活交通路線でございます。

課題につきましては、これ全部廃止路線代替バス、それから乗り合いタクシー事業、3つとも全部やはり利用者の数が減少しているというのが課題でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ただいま課題としては3つの形態は利用者が減少しているということですが、あと廃止路線代替バスとはどういうことなんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

生活交通路線が走っている区間、こちらがどうしても採算性がとれないというところで、

バス事業者が撤退した後、そこに交通空白地帯をつくることはできないということから、市のほからバス事業者に対してバスを走らせてくださいということで要望した路線がこの廃止路線代替バスでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それでは、次に地域公共交通活性化協議会、これは乗り合いタクシーが対象になっておりますけれども、その路線と内容をお尋ねします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

先ほど申しました廃止路線代替バス、この区間を走らせていたにもかかわらず、さらに採算性がとれないというところから、バスも走らせられないというところから交通弱者、高齢者であったりとか子どもさんであったりとか、いわゆる交通弱者を救うために、その区間、バスじゃなくて乗り合いタクシーでそういう人たちを救おうというところから地域公共交通総合連携計画をつくりまして、そういう人たちを救うものでございます。路線といたしましては、春日線、それから大野原線を走らせております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今、地域公共交通活性化協議会で乗り合いタクシー、それと廃止路線代替バスが乗り合いタクシーの上久間線、それと祐徳バス下吉田線、三間坂線、JRバスの牛ノ岳線が廃止路線代替バスですね。それと、生活交通路線維持の分が祐徳バス嬉野線、吉田線、祐徳線、それとJRバスの嬉野線になっておりますけれども、これらの3つの形態の公共交通なんですけれども、26年度が予算として3,914万8,000円、27年度が3,873万3,000円、28年度は3,946万1,000円の予算になっておりますけれども、やはり今、課長が言われましたように、これだけ市の予算を組まれていますけれども、なかなか利用者がふえないというか、本当は高齢化が進んでいますので、利用してもらうのがいいんですけれども、なかなか車社会になって利用者がますます今の段階では減っているということが課題ということで、先ほど課長も申されましたけれども、それが一番課題と思います。

その中で、28年度の2月19日に嬉野市地域公共交通活性化協議会というのがありまして、

私も傍聴させていただきました。その前に、先ほど言われましたように、嬉野市地域公共交通総合連携計画というのが21年3月に作成されているんですけども、この中に、これは10年計画でということですけども、この計画自体は21年3月ですので、10年計画で31年、もうすぐなるんですけども、この計画自体は継続としてはどうなるんでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

この分につきましては、平成21年3月に策定をいたしまして、期間としては平成21年4月からおおむね10年となっております。そういうことで、大体31年までの計画ではございますけれども、嬉野市、平成34年度に新幹線が走ります。ここを視野にバス、新幹線、連携して取り組む必要がございますので、平成34年をめどに新しい計画づくりに手を入れていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

新幹線開通に合わせてまた新しく計画を見直したいということで理解したいと思えます。

この計画の中で地域生活交通の再生ということで、上久間線沿線以外の地域ということで、デマンド運行等を住民、事業者、行政等で組織する地域公共交通会議等で検討しますと、デマンド運行というのを検討しますとありますけれども、そこは検討されたんでしょうか、これまで。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

デマンド方式というのが、いわゆる予約制のものでございますけれども、これ全国的にもデマンド制が導入された地域もございます。幾らか確認をしたところ、なかなか難しいと。デマンドを導入しても利用がなかったというところからの情報を見ると、やはり予約をするのが面倒と、そういうところからなかなかデマンド制を導入しても利用増につながらなかったというのもございました。そういうところから、嬉野市もこのデマンド導入については今のところ取り組んでいないところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

デマンド方式はなかなか使いづらいところがあるということの見解なんですけれども、私は期間的にも調査として取り組んでみてもいいんじゃないかなと思うんですけれども、本市ではデマンド式が合うのか合わないのかというのもある程度期間を決めて調査として行ってもいいんじゃないかと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

県内、それから武雄、鹿島、太良含めて今検討会をやっております。そういう中でも、このデマンド式の分につきましては、検討をどこの市町もやっております。そういうところとどういう形で進めていっていいのか、さらに勉強を続けて、嬉野市もこれをやってはどうかという御意見ですけれども、そのあたりも見きわめて今後考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それと、また同じ計画書の中で、公共交通空白地域等に新たな公共交通の導入とあります。その中で、新たな公共交通の導入を検討しますと、その際には現地を訪問して生活交通の把握調査や新たな公共交通に対する利用を掘り起こす面談調査を行い、慎重な事業収支等の検討を行いますとありますけれども、これは検討をずっとされたのでしょうか、計画。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

先日、田中政司議員のほうから金松地区の件が出ておりましたけれども、まさにそこが地域から要望がございまして、タクシー事業者さんと、あと警察、それから佐賀県と一緒に検討した経緯がございまして、そういう地域から要望があれば関係機関と話し合いをしていくようにしております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

そうですね、この前、田中政司議員からの質問でもありましたけれども、大野原線がなかなか利用者も少ないということで金松線の方が要望されていらっしゃるのか、少しでも一人でも多くの方が利用していただけるように検討とか調査はしていただきたいと思います。

次に、先ほど申しました28年度事業計画及び当初予算資料ということで傍聴させていただいたんですけれども、その中で、29年度の計画として平成29年度生活交通確保維持改善計画、地域内フィーダー系統確保維持計画の策定とあります。これは29年度に計画されているんですけれども、実際どうでしょうか、されているんでしょうか。計画の策定です。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前10時1分 休憩

午前10時2分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃいました地域内フィーダー系統確保維持計画というのは、これがいわゆる乗り合いタクシーの春日線、大野原線の計画でございますので、この分については引き続き運行しているというところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

この計画というのは、計画書の策定云々じゃなくて、事業を継続しているということで理解していいんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

そのとおりでございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ただいまのことは理解いたしました。

続きまして、では佐賀県のホームページを見ていましたら、地域公共交通確保維持改善事業というのが国のあれでもありまして、ここの中で地域間幹線系統、先ほど申しました、ここの中では生活交通路線の部分ですけれども、このことについて、国からの補助金として出るということで、佐賀県が計画を立てられて、その中に、見ていましたら対象として嬉野市も上がっていましたけれども、それが平成30年から32年の補助金として地域間幹線系統というのがありましたけれども、じゃ嬉野市は手を挙げられて申請されたのかなというのを見ていましたけど、いかがでしょうか。先ほどは地域内フィーダー系統というのがありましたけれども、これは地域間幹線系統と違って、今実際、生活交通路線の部分の補助金として出されるということで嬉野市が上がっていたんですけれども、どんなでしょうかねと思ひまして、お尋ねします。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

この生活交通維持路線につきましては、乗り合いタクシーを運行しているという説明をいたしましたけれども、国の補助金をいただいてこれは運行をしておりますので、この計画があつてのこその補助金でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

乗り合いタクシーではなくて、今実際に祐徳バスさんとかJRバスさんとか、その幹線路線のことなんですけど、の補助金。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

もう一つ、生活交通路線というのがありますけれども、この分も国の補助が当然出ておりますので、その分じゃないかなと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

わかりました。

公共交通ですけれども、では、今3つの形態で走っているわけなんですけれども、全体として、今、課題が利用者が少ないということですから、今後の対策としてもう一度お伺いしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

今後なんですけれども、これは当然市民の方々からの意見、それから単なる移動の利用だけでなく、観光の分野も視野に入れながら事業者、市民、それから観光分野の方々と協議をしていくのが大事なんじゃないかなと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今後は市民の方の意見を聞いて、また観光分野でも利用をしていきたいということなんですけれども、ある市民の方が言われました、このことに関して御意見をお伺いしたときに、例えば、民間だったら一つお店を開くにしても、きちんと現地調査というか、何人ここが交通の量があるかとか、そういう調査をされて、本当に採算が合うとなれば、そこに立地して、例えば店舗を開くとかありますけれども、そういったどれだけの人数の方が利用されているかとかの調査というか、それを専門の業者さんに頼んでもいいんじゃないかなと、例えば1カ月間とか、本当に何人ぐらいの利用があって、時間帯とか何人ぐらいの利用があるのかという調査はされないんでしょうか。今後、ニーズ調査も含めて、時間帯で何人の利用があるかとか、そういう調査をしていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

これまでも調査はやってきております。実際にバスに乗り込んでどのくらいのお客さんがいるのかも調査をしておりますし、私自身も実際バスに乗りまして、地元の区長さん、それからPTAの役員さんと意見交換会をしております。今後、先ほど言いましたように、やはり一番住民の方の意見が大事になってくるんじゃないかなろうかと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ただいま区長さんとか地元のPTAの方と言われますけれども、実際利用されている方とか、あと車を運転できない方とか、そういう方たちが何で利用できないのかというのを調査するのが本来の調査じゃないかなと。本当に必要な方の調査が必要と思うんですけれども、それを例えば地区の老人会さんに行って、どうして利用できないとか、壁、障害になるものは何なのかというのを調査するのが本来の調査になるんじゃないかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

これまでも実際にそういう調査もやっておりますし、これはもう全国的にどこの自治体でも公共交通については課題であります。というところから、今後も実際どういう考え方をお持ちなのか、把握をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

課長申されますように、これは全国的な課題であり、問題でありますので、嬉野市においてもこれだけ予算をかけて運行していただいているので、一人でも多くの方に利用していただくためにどうしたらいいかということをご一緒に考えていただきたいし、していただいていると思うんですけれども、このことについて市長はどんなふうにお考えでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

公共交通をいかに維持していくのかというのは、今それぞれの地域の最大の課題になっておりまして、先ほど担当課長も申し上げましたように、常日ごろ地域の役員さんあたりとも十分話をしておるところでございます。ただ、やっぱりどうしてもマイカーを使っておられた方が外に出られる際に、自家用車を廃止されてからということで、すぐこの公共交通を利用していただく率が非常に少ないというのは課題でございますので、そこらはそういう点を十分意識していただいて、できるだけ使っていただくということが、市民の方にも御協力をぜひお願いしたいなと思うんですけれど、以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ただいま市長も答弁していただきましたように、本当に一人でも多くの方に、特に運転免許を返納された方が利用しやすいような公共交通になればなど、していただければと思いますし、その中で、例えば、よくほかの自治体にありますけれども、タクシー券とかを配付して利用していただくというのもありますし、ただいまありましたように、予約制とか、予約制とかはやっぱり問題があって、先ほど言われましたように、電話しにくいとかありますけれども、それも最初回数が少ないからあれでしょうけど、なれば、家の前まで来ていただいて、使い勝手がいいんじゃないかなと思うんですけれども、オンデマンド式とかタクシー券とかの検討はできませんでしょうか。タクシー券というか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午前10時13分 休憩

午前10時14分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

今、運転免許を自主返納された方にタクシー券が配付されているというところで、これは佐賀県のバス・タクシー協会さんも取り組みを強化されているようでございますので、実際嬉野市も取り組んでおります。今後も高齢者による交通事故等が多発しておりますので、この辺が自主返納される方ふえてくるんじゃないかなろうかとは思っております。このあたりも十分頭に入れながら、この制度を継続性含めて検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

本当に公共交通ですね、市民のための、病院だったり買い物だったりとか、一番必要な公共交通になりますので、本当に一人でも多くの市民の方が利活用できるような施策をお願いしたいと思います。

では、次に参ります。

次、こどもセンターについてですけれども、今年度、こどもセンター整備検討委員会ができましたので、それにおけるこどもセンターの進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

ことし3月の市議会におきまして、こどもセンターの整備検討委員会の条例を可決していただいたところございまして、それから動き始めまして、10月16日に委員会を開催させていただいたところでございます。

この協議の内容につきましては、こどもセンター開設に向けての経緯を説明して、その後、場所とか運営内容について提案をさせていただいたところでございます。今後、1回目の委員会ということでございましたけれども、これからまた2月には第2回目の委員会を予定しておりますので、案の取りまとめに向かって引き続き努力をしてみたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、この委員会においての、10月に行われたということですが、具体的には内容としては、進捗的にはどういうふうに進むのでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

10月16日の委員会の中身につきましてでございますけれども、開設場所と運営の内容について、私どもの提案をさせていただいたという段階でございますので、今後また意見をいろんな形でお聞きしたいと思います。その中身につきましては、場所とか、あと運営の方法とか、そういうものをお話ししておりますし、できたらぜひ地域との交流とか体験の場ということの基本理念に入れて、31年度の開設に向けて準備を進めていきたいというお話をさせていただいたところでございます。また、委員の皆さんからも十分に意見を述べていただいたということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

こちらの検討委員会の議事録をいただいたんですけども、その中で、まずこのこどもセンターが一番市長が今期、交通安全と高齢者対策ということが大きな柱になっていきますと

ということで、27年の9月議会でも答弁されております。そして、子育てに懸命に取り組むということが必要ということも答弁をいただいておりますけれども、このこどもセンターの設置ですけれども、一番今期において、私も物すごくこどもセンターの設置については期待しておりました。なかなか進まないなと思いつつながら、注視していたわけなんですけれども、この議事録を見せていただきますと、ここの中で、このこどもセンターは子育て支援課の所管になりますけれども、健康づくり課の所管で子育て世代包括支援センターというのが32年度に各市町設置しなければならないという国からのあれが 있습니다けれども、これとの兼ね合いで進めていったらどうかということはこの議事録に書かれておりますけれども、そのことについて、子育て世代包括支援センターとのかかわり、そのことをお尋ねしたいと思いますけど、こどもセンターと子育て世代包括支援センターのかかわりというか、違いですね、それをお尋ねします。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（諸井和広君）

お答え申し上げます。

現在、設置が予定されているこどもセンターは、子育て世代包括支援センターの利用者支援事業基本型を担うことになっておりまして、健康づくり課では別の母子保健型を担う予定でございます。子育て世代包括支援センターは平成29年4月施行の改正母子保健法で規定されておりまして、市町村での設置が努力義務とされております。32年度までの全国展開をするようにというふうに努力義務とされております。

こどもセンターとのすみ分け的なところでございますけれども、子育て支援課のほうで基本型を担う、利用者支援事業の基本型を担うということになります。健康づくり課では母子保健型を担うと。母子保健型というのは、専任の保健師さんを配置して、安心して妊娠、出産、子育てができるように関係機関と連携して支援してまいります。業務の内容としては、妊婦及び乳幼児の実情を把握する、2番目に妊婦・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、必要な情報提供、助言、保健指導を行う、3番目にその対象者の支援プランを作成する、4番目に保健医療、または福祉関連機関との連絡調整を行うということが主な業務になってきます。

そういったことで、今後、一括的に子育て世代の包括支援ということで、子育て支援課と健康づくり課が一体して支援を行うという形になると思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

今、御答弁いただいたのは、子育て世代包括支援センターが母子保健型と基本型があるということで御答弁いただきましたけれども、母子保健型が健康づくり課の所管、そして基本型というのが子育て支援課の所管ということですが、利用者支援事業を2つの基本型と母子保健型があるということで理解いたしました。

その中で、子育て支援課長にお尋ねしますが、こちらは資料を見させていただきますと、例えば、母子保健型と基本型の一緒の同一施設、同一事業者というパターンと、母子保健型と基本型が別々の施設で連携をするというパターンがあるんですけれども、こどもセンターとしてはどちらのほうを本市はされようと計画されていますか。

○議長（田口好秋君）

子育て支援課長。

○子育て支援課長（大久保敏郎君）

お答えします。

今、議員が言われたように、2つのパターンが考えられますけれども、この前1回目の委員会を開催したわけですが、運営の内容についてまだまだ決まっておられません。ただ、1回目は委員さんからいろんな意見を聞いて、運営内容についてもいろいろ意見を聞かせていただいたんですけど、まだ何も決まっていない状態なんですけど、今の2つのどちらを選ぶかということについても、どちらのパターンで行くのかということについても今後の協議になりますので、まだ決まっていない状況です。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

ここの中で、議事録を見させていただいた中には、今、意見として委員の方から出ていたのが、こちらの隣の保健センターの一角をということで御意見が出ておりました。委員の方の御希望としては、先ほど市長も申されましたけれども、遊びの広場も兼ねての、もともとこどもセンターというのは切れ目のない相談業務を設置したいという市長の御意向なんですけれども、それに対して委員の方は、それにプラス遊びの広場も設置していただきたいという議事録を見させていただく中にはありました。

そういった中で、まだ母子保健型と基本型が一つの施設なのかというのは、まだ1回しか話し合いがなされていないということなんですけれども、これももう少し、今年度もう一回話し合いがあるということなんですけれども、もう少し回数をふやして、例えば若いお母さん方の御意見を聞く機会とか、あと委員会の中では吉野ヶ里のノイエという施設をモデルにしたいとありましたけれども、そこは保健センターの一角に若いお母さん方とか年配の方との交流の場も兼ねて設置されてうまくいっている施設なんですけれども、もしそこをモデ

ルにするんだったら、委員会の方と一緒にそこに視察に行くとか、それが必要じゃないかなと思うんですけども、担当課の方が視察されたイメージと、そこを聞いてのイメージもまた違うと思うので、一緒に委員会の方もその施設を視察とか、そういうのも必要じゃないかなと、それとまた若いお母さん方も募集されて一緒に視察に行くとかというのはどんなでしょう。

○議長（田口好秋君）

子育て支援課長。

○子育て支援課長（大久保敏郎君）

お答えします。

今、議員が言われたように、委員の皆さんはそういった施設はまだ視察とか見られておりませんので、そういう機会も設けて、見ていただくということもいいのかと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

このこどもセンターについては、本当に関係者の方、物すごく期待と、どういうのができるんだろうというのを思っている方も多いと思います。実際、今は拠点事業として嬉野庁舎のところに子育て支援センターがございます。そういった意味も兼ねて、そこでも相談業務とかされてはいらっしゃると思うんですけども、よく若いお母さん方が言われるには、どこに相談に行ってもいいかわからないと、だから、今回は相談業務を一つにまとめて、わかりやすい場所に設置していただくと思うんですけども、私が思うこどもセンターというのは、いろんな保健師さんもいて、今回ありますような同一施設で同一事業者というのが理想なんですけれども、そこには箱物というか、それが必要になってくるんですけども、新しく建てるのではなくて、既存のあるところをもっと検討していただいて、狭い場所じゃなくてある程度広さも確保できることを希望したいと思うんですけども、今回の議事録で見ましたら、保健センターというところでもありますけれども、そこは年に何回かがん検診もあっているかと思っておりますけれども、もしそこに決まった場合、そういうがん検診も全館使って、それも年間のうちに結構あると思うんですよね。それについてはいかがでしょうか、支障はないのでしょうか。例えば、こどもセンターをそこに設置したとして、がん検診がありますけれども、現場の方に聞いたら結構全館使いますもんねと、今予定されているお部屋も使っていますということだったんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

子育て支援課長。

○子育て支援課長（大久保敏郎君）

お答えします。

がん検診の場合どうするのかということですが、がん検診も年間何回かあっておりますが、今、こちらの考えとしては、検診期にはこどもセンターのほうは閉館するというふうなことで今考えているところです。実際、検診日程とか年間計画で決まっておりますので、事前に市民への周知とかはできると考えておりますので、その日には閉館をしたいという今考えでおります。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

がん検診も年間に決まっていると言われますけれども、前準備も要りますよね、後片づけも要ります。そしたら、当日だけの閉館じゃなくなるんじゃないかなと思うんですけれども、そういった面で、例えば、保健センターに設置になれば、がん検診を別のところですかというならわかるんですけれども、ちょっとそこも両方一緒というのはなかなか厳しいところがあるんじゃないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（諸井和広君）

お答え申し上げます。

がん検診、とにかく全館を確かに使います。先ほどの子育て支援センターとの併設はどうかということですが、日程的に全日程というか、毎日ががん検診をするわけではございませんので、先ほど子育て支援課長が申したとおり、子育て支援センターのほうを閉館するという形もとれるのかなと思いますけれども、がん検診のほかにもいろいろな検診もございますので、確かに議員が申されるとおり、非常に難しい状態ではあるのかなというふうに私も感じておりますけれども、ただ、協議の末、スムーズな業務ができるということであれば可能になる可能性はあると思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

こどもセンターの設置に関しても、場所の選定をしたとしても、なかなか検討するところがたくさんあるかと思っておりますけれども、相談業務と遊びの広場を、この議事録を見ても、やっぱり相談業務も必要だけど、遊びの広場も、例えば、保健センター塩田地区にな

るんですけれども、塩田地区の方の前からの希望でもありましたように、遊びの広場がなかなか近くにないということで、そこはいいと思うんです、塩田地区にも遊びの広場というのはいいいと思うんですけれども、設置場所に対しても、今、健康づくり課長が申されましたように、いろんな事業がある中で支障がないようにしていただきたいなと思いますし、こどもセンターについても気軽にいつでも行けるという場所を設置していただきたいと思いますけれども、要はもっともっと議論を重ねていただきたいと、いろんな方の御意見を踏まえて、委員さんだけじゃなくて、当事者の方とか、また視察に行っていたとか、子育て世代包括支援センターが32年ということですので、もうここまでずっと延びてきたので、もうちょっと早急に、今、市長は31年度の開設をと申されたんですけれども、そこで十分に議論されてここでというならいいんですけれども、しっかりと議論を重ねていただいて、それこそ市民の方というか、今から出産されるお母さん方、子育てをされるお母さん方、お父さん方、本当に一人でも多くの方が利用できるようなセンターにしていきたいと思いますけれども、市長はどうでしょうか、お考えを。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

途中でお話ししましたように、第1回目の委員会が始まったばかりでございますので、次の委員会ではもっと具体的な話が出てくると思いますので、そこらについては、やはり委員の皆さん方の御意見を十分聞かせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、念願のこどもセンターの設置に対して、一番適切なところと市民の皆さんが本当に利用できるような場所に設置していただきたいと思いますし、また今後もそういう会議とかを充実させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、最後の質問に入らせていただきます。

市民の声への対応についてですけれども、こちらは私がずっと市民の方に御意見をお伺いする中で、結構声が多かった中から取り上げているんですが、その対応についてお伺いしたいと思います。

まず1つ目は、嬉野市曲「ふるさとの空よ」についてですけれども、現在、朝、昼、夕方と嬉野市曲「ふるさとの空よ」が防災行政無線から流れておりますけれども、以前も塩田地区の方から曲の変更をしてほしいという要望があったんですけれども、そのときは市長の答

弁としては、皆さんに知っていただきたいということで、しばらくは続けたいという御答弁だったんですけれども、もうほとんど皆さん、学校でも入学式、卒業式で歌われていますし、もう周知はできたんじゃないかなと思うんですけれども、例えば、お昼だけそれを残すとか、朝と夕方は曲を変えてもらいたいという御要望が多いんですけれども、それに関してはいかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野市曲の「ふるさとの空よ」は市制施行10周年を祈念して制作したものでございます。嬉野市のイメージがよく表現されていて、その魅力がたくさん詰まっております。今、市内の小・中学校等でも卒業式などで子どもたちが元気に歌っておるところでございます。非常にいい曲だというふうに聞いておりますので、継続してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

市長としてはずっと継続していきたいと、1日3回の分を継続していきたいということでよろしいですか、もう一度お願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先ほど申し上げましたように、非常にいい歌だということで評価いただいておりますので、今のチャイムについては継続して利用していきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それでは、以前、庁舎にお電話したときの待ち歌というか、電話を待つときの曲として流れていたんですけど、今は流れていますでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

電話のお待ちいただくときの電話は、今それぞれ使っているんじゃないかなと思います。観光課は観光課でまた別のを使うときもございますので、それは切りかえられますので、一応そういうふうになっていると思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

私、何回か電話したんですけども、最近は流れていなかったように思うんですけども、総務課、いかがでしょうか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

流れているのは嬉野庁舎のほうが流れていると思ひまして、塩田庁舎のほうでは電話の待ち時間については、この曲は流れておりません。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それはどうしてでしょうか。どうして嬉野庁舎だけでしょうか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えいたします。

今、総務課長が申しましたとおり、保留音につきましては、嬉野庁舎のみが流れていると思います。塩田庁舎のほうにも保留音として流したいという意向を持っていたんですけども、ちょっと料金がかかるということをお聞きしましたので、その分、塩田庁舎のほうには導入していないというところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

それはちょっとおかしいんじゃないかなと思うんですけども、嬉野庁舎だけ流して、塩田庁舎は料金の関係で流さないと、私は塩田庁舎にかけることが多くて、ああ、流れていないと思ったんですけども、外の方に向けてとか市民の方に向けても電話はいいんじゃないかな

いかなと思っているんですけれども、このチャイムに関して本当に市民の方が結構お聞きするんですけれども、変更はだめなんですかね、もう一度お願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

このチャイムにつきましては、嬉野市曲ができる前は、いろんな意見がございまして、時代によって変えてきた経緯もございましてけれども、それぞれ意見をお持ちでございまして、やっぱり賛成、反対半分ぐらいだったのかなと思っているわけですけど、私としてはようやく統一して聞いていただける市曲ができたということで放送を続けたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

そしたら、もう一度市長にお伺いしますけれども、塩田庁舎の電話の待ち歌はいかがでしょうか、その件に関しては。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

予算がなくてできなかったということでございますので、予算を組むようにしたいと思いますし、ただ、電話の待ち歌については、観光課あたりはいろんな歌を使うときもございまして、それはPRをしたいときにいろいろありますので、それは導入できるんじゃないかなと思います。予算的にはできたら措置をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

このことに関しては、されるなら統一してされたほうがいいんじゃないかなと思います。チャイムの件に関しても、ずっと続けたいと言われるなら、本当に電話もするしないはなく、していただくのが本当じゃないかなと思います。

では、次に参ります。

次に、国道34号の嬉野医療センター入り口交差点についてお伺いします。

①ですけれども、以前の市長答弁では交差点のところで結構交通事故とか多かったので、市有地にして交差点の整備をしたいということだったんですけれども、その後、交差点の改良はどうなったのでしょうか、お伺いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

国道34号の嬉野医療センター入り口の交差点についてのお尋ねでございますけれども、結論から申し上げますと、現在、暫定供用の状態ということでございまして、次の事業に向けて継続しているというふうに判断をしているところでございます。

以前申し上げましたように、国にも計画を御説明いたしまして、2カ所は私どものほうで購入させていただいたわけでございますけど、あと2カ所はまだ民有地の形になっておりますので、4カ所交差点があるわけですけど、これから事業を組み立てる場合についてはまた御相談をしていくということを考えておりますので、現在まだ暫定供用という形になっておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

現地を見させていただいたんですけれども、今、湯けむり広場の道を挟んで前にロープが張ってあったんですけれども、そこはどうなるんですかね、市有地なんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

その箇所につきましては、以前、建物が建ってございましたけれども、取り壊されて、今、民間の方が処理をしておられるということでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

暫定的にということですが、今後、先の見通しとしては購入ができて整備ができるということで理解していいんですか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

将来的には計画どおりの交差点、もっと広がるわけですけれども、そういうふうにしたいと考えておりますので、これからお譲りいただくように、ぜひ御相談をしてみたいと思っていますところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、なるべく一日も早い計画どおりの整備ができることをお願いしたいと思います。

続きまして、2番目に湯けむり広場の今後の事業継続についてお伺いいたしますけれども、こちらは平成26年12月議会でも私が一般質問させていただきました。そのときには、こちらの設立が平成23年9月20日設立、総工費2,549万6,000円、年間維持費300万円という御答弁だったんですけれども、それで間違いないでしょうか、担当課にお伺いします。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

議員御発言のとおりでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

じゃ、現在も年間維持費300万円ということで理解してよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

現在の維持管理の費用につきましては、230万円程度になっております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

こちらの件も市民の方からの声で、ちょっと言葉は、表現としてはあれなんですけれども、

一番無駄なところじゃないかなというお声をよく聞くんですよね。前に市長からの答弁でも、観光客の方が来られたときに湯煙の情緒を出したいということで設立しましたということなんですけれども、なかなかその場所がお隣が民間の駐車場になっていますので、そこかぶって、民間のところの施設みたいにはしか見えないし、なかなか場所的にもちょっと規模的にも小さいので、本当に情緒が味わえるのかなというのがあるって、これだけ維持管理費が230万円、それだけの効果はあるんだろうかというのが市民の方の御意見ですけれども、これに対して担当課はどういう、市民からの御意見はないですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

まず、設置趣旨につきましては、先ほど議員御発言のとおり、温泉情緒豊かな湯煙でもおてなしをするということで設置をしているところでございます。

私のほうが聞いているのは、最近来られたお客様が湯煙が上がっているということで、ああ、温泉に来たなというふうなことを感じたというお話は何っております。ですから、そういった面も含めて、くつろぎの空間として今後も利用できればなと思っているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

その反面、今、観光客の方からということは、地元の方からはそういうお声は聞かれますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

観光課のほうには直接的にはそういったお声は今のところ、私が観光課に来てからは届いていないような状況でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

そういうお声があるんですけれども、それだけの市の財政をかけて維持していく230万円

とあるし、それが市民の方にとって本当に効果があるんだろうかというのが、ほとんどの方が言われるので、ここに何回も上げているんですけども、例えば、いろんな交付金があって、新しい事業をどんどんつくっていったり、箱物をつくっていったり、いろんなものを設置されますけれども、やはりつくるに対して、また無駄な事業とかはやめていかなきゃいけないと思うんですけども、そこも判断のしどころと思うんですけども、私はもうそこを公園だけでもいいんじゃないかなと個人的に思いますし、あのスペースですね、思いますし、言葉はあれなんですけど、事業をやめる勇気とか変更する勇気も必要じゃないかなと思うんですけども、市長いかがでしょうか、このことに関して。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

それぞれの事業につきましては、当然見直しをする必要があると思いますし、今までもずっと継続をしております。ですから、そういう点では不要な事業を無理してやる必要はないと私は思っております。

ただ、この湯けむり広場につきましては、以前から長い時間、観光関係の方を中心に、温泉情緒を出すためには湯煙を見れるところが必要だというふうな話もありまして、ここが取得できなかった場合は、以前は側溝にお湯を流したらどうかとか、いろんな意見もありました。しかし、幸いにしてここが借りですけれども、取得できましたので、ちょうどあの場所がよそから来た観光バスが一番とまる場所になっているんですね。そういうことで、あそこここういうふうな施設があるということで、非常に情緒につながってくるんじゃないかという話がありまして設置をしたわけでございますので、私は効果としては上がっていると思います。いろんな判断はあると思いますけれども、また、私どもは観光のお客様からもいろんな意見も聞くわけなんですけど、最近、タクシーの方から聞きますと、あそこで海外の方が写真を撮っているのが非常に目立つというようなことでございますので、成果としては上がっているんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

最後に担当課にお聞きしますけれども、では、ここを湯けむり広場をもっと活用するためには何か策はございますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

今何をというのはございませんけれども、今後も各方面の御意見を伺いながら、利活用の方法については検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

増田議員。

○4番（増田朝子君）

では、今、市長も担当課長もこの場所は観光客のためにもぜひ残していきたいと、継続していきたいということですので、市民感情としては余りあれなんですけれども、もっともっと観光客の方に来ていただいて、そこを感じていただけたら、情緒豊かな嬉野市として感じ取っていただけたらと思います。

では最後に、首長また執行部の皆さんにおかれましては、これからも政策を遂行していくために、財源確保として国に対し補助金、交付金の申請をしていかれることと思いますが、市民の借金になる財源なので、市民の知らないところで支出されるのではなく、透明でガラス張りの政治、市民が納得できるような政治、また市民全体の心が潤うような政治に心がけていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで増田朝子議員の一般質問を終わります。

引き続き一般質問の議事を続けます。

2番宮崎良平議員の発言を許します。宮崎良平議員。

○2番（宮崎良平君）

皆様おはようございます。議席番号2番、宮崎良平でございます。傍聴席の皆様におかれましては、師走のお忙しい中傍聴いただき、まことにありがとうございます。

私も市議会議員として初当選し、間もなく1期を終えようとしております。

右も左もわからないまま、不安いっぱいスタートした議員生活ではございましたが、丁寧な御指導、また温かい目で見守っていただいた先輩議員の皆様、そして同僚議員の皆様、それと議会において真摯な御答弁をいただいた市長初め執行部の皆様、また議員活動を行うにおいて丁寧な資料作成、説明などをいただきました市職員の皆様、そして議会に対し御理解、御協力をいただきました市民の皆様に、この場をかりて改めて感謝を申し上げます。

さて、それでは任期最後の質問になりますので、通告書にできるだけ沿いながら思いを込め、質問をさせていただきます。

では、今回は大きく分けて3つの質問となります。

1つ目は、自然災害の対策について、2つ目は、緊迫したアジア情勢において、仮に武力攻撃などがあった場合の市の対策ということで、住民の安全確保について、3つ目は、嬉野市の未来についてということで質問をさせていただきます。

まず、1つ目の自然災害の対策ということで、地域防災計画全般について、市職員への周知徹底と市民への啓発活動がしっかりできているか、また、今後の課題と改善点があれば伺います。

ということだけを登壇者席より質問をしまして、あとの質問につきましては、質問者席よりさせていただきます。

それでは、御答弁よろしく申し上げます。

○議長（田口好秋君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（谷口太一郎君）

宮崎良平議員のお尋ねについてお答え申し上げます。

お尋ねにつきましては、自然災害の対策についてと、そういう中で、自主防災計画等についてお尋ねございまして、市職員への周知徹底と市民への啓発活動はしっかりできているのかと、また今後の課題と改善点があれば伺うということでございます。

災害対策基本法や佐賀県地域防災計画の改正に従って、嬉野市地域防災計画も修正を行っておるところございまして、その過程で各課において確認作業を実施しております。

警報の発令などによる避難所の開設や道路の冠水、土砂崩れなどの発生の際は、他の課の職員も対応に当たりますので、防災に関する意識は高いと考えております。

啓発活動については、防災の基本は、自分の命は自分で守る、地域の住民は地域で守るという自助と共助になります。

現在、地域コミュニティでは、自主防災に関する各種取り組みを行っておられましたが、時には出前講座など防災に関する啓発活動を行っておりまして、またサポートを行っておるところでございます。

現在、多くの地区で、おかげさまで自主防災組織を立ち上げて、各種の取り組みをなされたいと考えております。住民の皆様の参加をより多くいただくことが重要でありまして、今後とも市としてどのような支援ができるのかを検討していきたいと考えておるところでございます。

以上で宮崎良平議員のお尋ねについて、お答えとさせていただきます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

丁寧に御答弁いただき、ありがとうございます。

我が国においては、1995年の阪神・淡路大震災、また2011年、東日本大震災、2016年の熊本地震など未曾有の大災害と、悲しくつらい経験をしながらも学び、地震に対する備えは国を初め嬉野市においても着実に学びながら進んでいる状況ではございます。

地域防災計画においても、1、2編では202ページ、また3、4編では238ページ、5編で53ページと備える防災から災害が起こったとき、またその後の対応から復興までと、多岐にわたり防災計画がなされており、感心しております。

そういう中において、嬉野市の防災についてもっとよくなればと思い、質問をさせていただきます。

勉強不足で申しわけないんですけど、そういう形で前置きしながらお伺いしますが、防災無線では、どういうものがどういう形で流されているのか。最近のことでいえば、強い寒気が入り込み、凍結のおそれがあるとか、議会の一般質問の案内とか、そういったものも流れていると思いますけど、ちょっとそこら辺、詳しくお願いしてもよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

防災無線の運用についてのお尋ねでございますけれども、防災無線、流す内容といたしましては、議員発言のとおり、災害情報、それから市としての必要なお知らせ、そういったものを流すようにしております。

特に災害等に関しましては、やっぱり災害が起こりそうなときは、大雨が降ったり、水位がふえたり、そういったときには事前に注意が必要なときと判断いたしまして流しております。

それから、必要な行政情報につきましては、各課のほうから総務課のほうに依頼がありますので、それを判断しながら流しているという状況でございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ところで、そうすると気象庁が出している特別警報とか、あとは当然、先日、辻議員よりも質問がありましたJアラートなどはもちろん、防災無線と連動されて当たり前流れますよね。

そこでお伺いするんですけど、現在、嬉野市の全世帯の何割ぐらいがこの各戸、家の中とか、防災無線が設置されているんでしょうか、お伺いします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

防災行政無線の戸別受信機の設置状況ということでありますので、ことしの8月現在の数値をつかんでいるんですけども、その中では、設置数が6,260機の戸別受信機を設置しております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

これ、パーセンテージでいうと何割ぐらいになるんですかね。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

世帯数に対する割合といたしましては、62%になっております。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ありがとうございます。

では、防災無線を設置されていない約4割ぐらいの方々がいらっしゃるわけですね。これ現在も無線機の設置を促すような推進活動とかはなさっているのでしょうか。

それとあと、ちなみにこれ現在は有料になるんですかね、どうなんでしょう。そこら辺もう一回確認をさせていただきたいと思います。

それともし、今の若い方とか防災無線機などの設置が煩わしいとか、そういったことも考えられますので、そういう問題があるのでしたら、防災メールの登録の推進とか、そういったものも含めてなさっているのか、そこら辺をお伺いします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

3点ございましたので、まず1点目の普及活動についてということですが、何回となく広報等でお伝えいたしております。それと、また総務課の職員のほうで個別に回ったりしていることもやっております。

この普及率が低いというか、設置されていないところとしては、やっぱり民間のアパートなんか結構多く入っております。

そういったところで、ちょっとやっぱり借家している中でつけるには、やっぱり大家さんとか不動産屋さんの許可が要るとか、そういったところで、大手の業者さんに対しましてはそういったところの問題等もありますけれども、そういったところにも丁寧な説明はしているんですが、そういった関係で普及はちょっと進んでいない状況でございます。

それから、設置の料金ですけれども、戸別受信機設置は個人負担はございません。

それから、設置しないところに防災メールということの広報ということですが、これについても何回かそこら辺の広報を行っているところで、最近はちょっと行っておりませんけれども、やっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

はい、わかりました。

一家庭でも多く設置していただくことによって、またこの防災メール登録をしていただくことにより、被害から免れる可能性というのは相当高くなると思うんですね。また、それにより2次災害というものも被害も防げるかと思えます。そういった状況も踏まえながら、今後さらなる推進に向けていただきたいと思っております。

それともう一つ、市長これ、全ての市民の生命と財産を守ることが、市長を初め職員の皆さん、また私たち議員においても一番に努めるべきことかと思えますが、ちょっとそこら辺、御感想をいただいてよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先日の御答弁でもお答えしましたように、やはり市民の生命と財産を守るのが私の第一に成すべき仕事だというように思っておりますし、また市役所職員もそうだというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

そういう中で伺いするんですけれども、現在、上不動、千室神社から上のほう、特に牛

ノ岳方面において、屋外の行政放送が全く聞こえないということで声を聞いております。この前の議員とかたろう会するときでもお話をして、その答えもいただいているかと思えます。

また、大定寺より上のほうになると、これ携帯電話の電波も届かないという地域もございます。もちろん御存じですよね。これに対して、何か対策がございますでしょうか。そこら辺をお伺いします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

質問としましては、防災行政無線の屋外拡声器の声が入らないところの地域の対策ということでございますけれども、確かに議員おっしゃるとおり、上不動の牛ノ岳あたりは入っておりません。ただ、そこら辺に関しましては、戸別受信機のほうはかなり設置をされておりますので、自宅にいらっしゃるときはそれで情報は聞き取っていただけたと思います。

そこに限らず、何カ所かちょっと空白地帯がございますので、そういった面は、前回やったかな、議会で答弁しましたように、調査を行いまして、そこら辺が本当に必要性等を考えながら拡大できるのかどうか、どういう対応があるのかを、今、検討しているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

これもし仮に畑仕事をしていまして、近くで火災や土砂災害とか、そういったものにより生命や財産を脅かすというような被害が及びそうになったときに、この屋外の防災無線機による情報というのは、大事な大事な唯一の情報手段であります。

私は思うんですけど、これ町部であろうと中山間地域であろうと、大事な大事な市民がそこにいらっしゃるという中で、このできる限り全ての市民に大切な情報というものを与えられるように、いま一度屋外における行政無線のあり方というものと設置場所の調査研究に取り組んでいただきたい、そう思っております。

実際に、この前、皿屋谷生活センターで議員とかたろう会ときに出てきた質問、屋外の防災無線を聞こえるようにしてほしいということで、これに対しての市からの回答として、市としては皿屋谷地区における屋外スピーカーの設置については御要望にお応えすることができませんという形で返ってきております。

先ほども申しましたけど、町部においても本当に中山間地においても市民は市民、ここに対してしっかりとこの行政無線というものが生命と財産を守るというその中に、それが一丁

目一番地としてあるんでしたら、そこは必ずやらなければいけないことではないかと思うんですけど、そこについてもう一度御答弁お願いします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

確かに市民の生命と財産を守るのが市の役目とっております。そういった意味で、防災無線、大変有効な手段と考えておりますが、今、防災無線の屋外拡声器のほうも住居があるところを中心に行っておりますので、全地域での市民にお知らせというのは、やっぱり農地とか山間部でされているところですね、山手のほうなんか、民家がないようなところまでは拡大はできないかもしれませんけれども、そういった民家があつて、確かに上不動地区の上のほうは携帯電話も入りませんので、そこら辺についてはもうちょっとどういう方法でできるか、検討していきたいと思えます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

今後とも調査研究をされて、取り組んでいていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

また、もう一つちょっとお聞きしたいんですけど、現在、指定の避難場所というのがございますね。この指定避難場所一覧という中に、社会体育館が入っておりますけど、現在もその指定避難場所として指定がされているのでしょうか。お伺ひいたします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

社会体育館、旧嬉野町のところにある分ですね。これは用途廃止でございまして、指定は外しております。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

まだホームページにも載っておりますし、ちょうど市役所の前の指定避難場所という看板の中にもきっちり記されております。もし、これが外されているんでしたら、そこら辺の対応もお願いしたいと思えますけど、よろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

そういう表示までは確認しておりませんので、確認して訂正したいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

はい、わかりました。ぜひともお願いします。

では、次の質問に移ります。

2つ目は、住民の安全確保についてということで、緊迫したアジア情勢において、仮に武力攻撃などがあった場合、これに対しての市の対策をお伺いいたします。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

北朝鮮のミサイル問題とか、そういった場合の武力攻撃についての対策ということでございますので、まずこれに対する情報伝達の手段としては、Jアラートがございます。Jアラートは国民に広く緊急情報を伝えるシステムとなっており、これは、嬉野市は防災行政無線と連動して運用を行っております。

内容としましては、ミサイルなどの武力攻撃があった場合は、すぐにJアラートが反応しまして、嬉野市の防災無線でミサイル発射とか避難の呼びかけを行います。その後に、もし必要があれば避難の情報を呼びかけますし、ミサイルの落下場所などの伝達情報を行うようにしております。その場合は、市民の方も防災無線のアナウンスに沿った行動をしていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

たまたま偶然にも、ことしの9月15日以来、活発な動きがなかった北朝鮮による大陸間弾道ミサイルICBMが、私が通告書を出させていただいた翌々日の29日、午前3時18分ごろに同国西部のピョンソンから弾道ミサイル1発を発射したということになっております。

ただ、ミサイルは53分間、約1,000キロメートルを飛行し、同4時11分ごろに青森県西方

沖の沖合の約250キロメートルの日本の排他的経済水域ぎりぎりの日本海に落下したということになっております。

これ私たち市民は、仮に嬉野市において武力攻撃があった場合、どういった行動をとるべきか考えておりました。そういったところ、私も恥ずかしながら、今回調べている中でわかったことなんです、嬉野市国民保護計画なるものがございました。総ページ数112ページから成る仰々しいものでして、市民にお伝えするにはとてもじゃないですが難しい。もう少しわかりやすく市民に対してお伝えすることができないかなということを提案する予定でしたが、12月6日、嬉野市ホームページのトップページを開いたど真ん中に、びっくりマークで、嬉野市防災情報とオレンジ色に輝いておりまして、開くと、弾道ミサイル落下時の行動等についてということで、市民向けにわかりやすく説明がなされておりました。先にやられたと思わなかったことはありませんが、できるだけ早く対応をしていただきたかったので、さすがだなと感心しております。

さて、市民の皆さんに対して、最初の入り口というものに関してはよしとしながらも、この嬉野市国民保護計画、すみません、市民協働推進課の課長さん、こちら辺に関しては御存じでしょうか、よろしく申し上げます。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

嬉野市国民保護計画について、そういうのがあるというのは知っていましたがけれども、中身を具体的には勉強しておりません。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

第1論の総論から始まり、第2、平素からの備えや予防、第3編、武力攻撃事態等への対処、第4編、復旧等、第5編、緊急対処事態への対処と、要は武力攻撃事態等における国民の保護のための計画なんです。

ちょっと意地悪でしたけど、突然お伺いしたのも、実はこの中の第2編で、平素からの備えや予防という中で、第1章第1において、市における組織、体制の整備の中で、市の各部課等における平素の業務ということで、この部署のこの課はこういう業務を行うとか、そういうものがうたってあるんですよ。

また、第3編、武力攻撃事態等への対処、第2章の中でも、市の各部課室における武力攻撃事態における業務ということで、これもうたってあります。

そういう中で、各課のトップの方々が把握されていないという状況というものがかがな
ものかと思いますが、これ市長、ちょっと御答弁をいただいてよろしいでしょうか。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

それぞれのいわゆる各課の責務と、またそれぞれの役職の責務があるわけでございますので、この緊急事態等につきましては当然対応していくということになるわけございまして、私どもの対応によって市民の皆さん方の安全・安心を第一に考えていくというふうな計画であるわけございまして、特に緊急事態での対応ということにつきましては、非常に難しくなりますので、もう一度やはり計画自体を徹底するように努力をしてみたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

これは、もちろん何も無いことにこしたことはありませんが、これだけ現在アジアの、特に朝鮮半島情勢が緊迫しているという状況の中で、本当に何かあるかわからない情勢ですよ。私もですけど、余りにもちょっと緊張感がなさ過ぎじゃないかと思いますが、そこら辺ちょっと総務部課長、御答弁よろしくお願いします。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（辻 明弘君）

お答えいたします。

この国民保護計画につきましては、確かに職員を初め、一般市民の方への周知等も余りできてなかったかと思っております。市のホームページ等には掲載があるかと思っておりますけど、その内容について、確かに110ページということもありまして、わかりやすいというところが不足していたのかなと思っております。

こういった今の情勢を見ますと、やはり市民の皆さん、それとあと職員についても周知等、研修等、必要かと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

この国民保護計画、確かに職員の末端までは周知が行き届いていないと思いますけれども、これに関しましては、組織体制の組織から含めたところで職員のほうにも周知を図っていきたいと思います。

また、市民への周知ですけれども、これはちょっと言われますように、大変長い計画文書になっておりますので、わかりやすいところから、本当にすぐ必要なようなところを広報を行っていきたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

今回、失礼ながら、市役所の職員の方々数名にこの嬉野市国民保護計画のほうのことを尋ねました。存在を知っているのは1人だけ、あとはあることさえも知らないという現状がございます。

これ各部署において、いろいろと機構改革等でトップがかわったりします。畑違いの部署に異動になることだっております。これ、よい機会ですので、総務課を中心に勉強会等を開いていただき、本当に市民の安心・安全を守るため、緊張感を持ってやっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

では、最後の質問となります。

嬉野市の未来についてということで質問をさせていただきますが、まず市長、町長から数えて22年、これまでを振り返り、まずはなかなか自己評価って難しいと思いますが、お伺いいたしてよろしいでしょうか、自己評価だけをお願いいたします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

先日の議会でも御答弁申し上げましたとおり、市民の皆様の御理解、御支援、激励をいただいて事務を遂行しておるところでございます。間もなく任期満了になるわけでございますけれども、お礼を申し上げたいと思います。

加えて、近代的で、ほかの自治体の御視察を数多く受けられる嬉野市議会の皆様の御活躍により、責務を遂行することができたということにつきましては、改めて敬意を表しまして、また政策をともに遂行できましたことにお礼を申し上げたいと考えておるところでございます。

自治体に対する課題は、常に存在するわけございまして、私は常に所信として持ち続けました、いわゆる公正としての正義を基本理念として持ちながら、日々公務に対応させてい

ただいたところでございまして、厳しい課題は多々ございましたけれども、市民の皆さんの御理解により将来の嬉野市の一助になればと考えて努力をさせていただいたということで、非常に市民の皆さん方にはお礼を申し上げたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

ちなみに、もう少しこうして、こうできていればとか、こうしたかったというような心残りのようなことがあればお伺いしてもよろしいでしょうか。すみません。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

日々100%完全にということを目標にやってまいりましたので、心残りがあるというのは間違いだと思いますけれども、しかしながら、時間的な流れの中で、この議会の最初に申し上げましたように、もう少しスピードアップをして、今の時代に合った、いわゆる地域防災というものが市内に根づくように努力できたならよかったのではないかなというふうに思っております。

ただ、このことにつきましては、今、地域の方の御努力をいただいて、地域の方々が力を合わせて防災についてしっかり考えていこうという動きをしていただいておりますので、ちょっと時間はかかりましたけれども、そういう点ではこれからもぜひお願いしたいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

最後に、まだまだ現職の市長の立場でございますので、これからの嬉野市の未来へ向け、どうしても託したいという思いがあれば、お聞かせいただいてもよろしいでしょうか、お願いします。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答えを申し上げます。

将来についてでございますけど、それは次の若い人たちが考えることでありますけれども、

やはり今まで取り組んでまいりました人に優しいという、弱い人の立場に立った政策というものを、ぜひどこかで生かしていただきたいなと思いますし、またここ20年以上にわたって教育関係にいろんな予算をお願いしてきたところでございまして、この教育関係の整った嬉野市で育った子どもたちが、いろんところで活躍してくれたら非常にいいなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

宮崎議員。

○2番（宮崎良平君）

はい、わかりました。

最後まで熱い思いと真摯な御答弁をありがとうございました。

本当に22年間、町、市のトップとして、大きな大きなプレッシャーの中での町政、市政運営だったのではないかと思います。この場をかりてではございますけど、改めて御尽力に敬意を表させていただきます。ありがとうございます。

それでは、私の今任期中における最後の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（田口好秋君）

これで宮崎良平議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで13時まで休憩いたします。

午前11時30分 休憩

午後1時 再開

○議長（田口好秋君）

それでは、休憩前に引き続き一般質問の議事を続けます。

17番山口要議員の発言を許します。山口要議員。

○17番（山口 要君）

議席番号17番、山口要です。傍聴席の皆さん方、そしてまた、テレビでごらんになっている皆さん方に改めて御礼を申し上げておきたいと思っております。

ただいま議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

今回の一般質問が私にとりまして最後の質問となりましたが、振り返ってみますと、昭和62年、商工会青年部長を辞した後、10月に、当時よく言われておりました「選挙の三バン」言われる地盤、かばん、看板、何にもない中において、ただひたすら嬉野の将来のあるべき姿ということにロマンをはせながら立候補した中で、町民の皆様方の温かい御支持、御声援のおかげを得まして当選をさせていただき、今日まで宿命に耐え、運命に戯れ、使命に生きて30年間の議員活動を送ってまいりました。その間、議員初当選時に誓った議員としての務

めである一般質問は毎回必ず行うということを自分自身に言い聞かせながら、議長時代の4年間を除き質問を行った結果、その一回一回の積み重ねで今回が104回目の一般質問になったところであります。その一般質問の中身におきましても、財政、観光、教育、農林、福祉、さまざまなジャンルにおいて数え切れないほどの政策提案を行ってまいりました。その中で実施されたもの、いまだ未着手のものありますが、私自身としては思い残すことはありません。

30年という月日は、歳月は無言の詩という思いと重なりますが、この間のさまざまな出来事が、今、走馬燈のごとくよみがえってまいります。その中におきましても、嬉野町議会に議会だより全国コンクールで第2位、そしてまた、嬉野市議会におきましては、議会改革のコンクール全国第3位と、議員の皆様方と一体となった結果、はえある賞をいただいたということは、嬉野議会がある意味での全国レベルに達することができたということで、私自身、記録に残る記憶として脳裏に深く刻まれているところでもあります。

さて、ただいま私ごとにはばかり話が偏りましたが、目を転じて、本市のありようということについて考えてみますと、今、ふるさとの崩壊というものが現実味を帯び、地方創生が大きな課題となっています。どうすればいいのか。大切なことは自分たちのまちは自分たちで考えるしかないと覚悟することではないでしょうか。

これまで歩んだ歴史を知ることが、そのための大事な一歩であろうと思います。今までの谷口市政の中でいろいろな政策の種がまかれています。その種から芽を出し、百花繚乱とはいかずとも、一つ一つの小さな花を咲かせていくことがこれからの課題であろうというふうに考えます。岩山をうがつ音というものは、今あちらこちらから響いてきていると思います。その穴というものを着実に広げ、その小さなひびがきっかけになって、思ったより早く割れ、花を咲かせることができるかもしれません。今まで嬉野市政の視界を遮ってきた大きな岩がなくなったときに、目の前には必ずや新しい風景が広がってくるはずです。そのことに大きな期待を寄せながら、前置きが長くなりましたが、本題の質問に移りたいと思います。

通常は3枚ほどの通告書になるところでありますが、今回は1枚だけの通告書になっております。しかしながら、20課各全般にわたっての質問でありますので、時間が足りない分があるかもしれませんが、執行部の皆さん方には、私が質問したときには最後でありますので、どうか丁寧な御回答をいただきたいと思います。

それでは、まず第1番目に、ここで質問のものについて通告書で出し、そして、資料請求でそれぞれ各課の問題点というものをいただいております。

まず第1番目に、福祉課の現状における一番の問題点ということについてお答えを求めたいと思います。

あとの質問については質問者席より行いたいと思います。

○議長（田口好秋君）

福祉課長。

○福祉課長（染川健志君）

お答えいたします。

福祉課においての問題点ということでありますけれども、問題点としては、地域共生社会を実現するための地域福祉ボランティアなどの確保が問題になるのではないかというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その地域共生社会ということ、これは要するに地域包括ケアシステムというものを進化させたものであるというふうに理解をしておりますけれども、そこで、地域福祉ボランティアの確保ということで今お答えになりましたけれども、これ総合計画の後期基本計画の中において、地域福祉ボランティア、グループ数が平成24年において46団体、これが平成29年度で60団体、福祉ボランティア登録者数においては5,595人が6,000人という目標を掲げておられます。現状においての状況というものはどのようになっているのか、お答えをいただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

福祉課長。

○福祉課長（染川健志君）

お答えいたします。

福祉ボランティアにつきましては、現在、団体数が41団体になっております。

以上です。（「人数は」と呼ぶ者あり）

人数にいたしましては、登録者が2,826名です。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ということは、これ平成24年の現状値から比較したときに、人数の見方わかりませんが、団体においても46団体が41団体に減っている、人数においても5,595人が2,826人と減少している。そこら辺の理由というのはどういうものですか。

○議長（田口好秋君）

福祉課長。

○福祉課長（染川健志君）

お答えいたします。

団体数については今現在41団体ですけれども、この団体を数として前は学校ボランティア関係、学校のほう、それを団体として登録をしていたと。人数も学校ボランティアのほうを登録のボランティアに含めていたということで、これだけの数字になっているかというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

やはりこの問題点、お答えをいただいた中に示してあるように、地域共生社会、これ実現するためにはやはりボランティアの確保というものが今後一番の問題になってくるだろうというふうに思います。

そういう面で、今後に向けてはぜひそこら辺に力点を置きながら、ボランティアの確保ということに努めていただきたいということで要望をしておきたいと思います。

次に、財政課。交付税の合併優遇措置の終了に伴い、今後の一般財源が懸念されるというふうな答えをいただいております。このことについて、もう少し御説明をいただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

財政課長。

○財政課長（三根竹久君）

お答えをいたします。

今お尋ねですけど、一般財源が懸念されるじゃなく、一般財源不足が懸念されるということでございますけど、ここ書いておりますとおり、合併から10年間は交付税が旧2町の合算額ということで来ております。それが10年経過しましたので、これから5年間かけて、その分が減額されていくということで、その分がもう一般財源が減ると。それに合わせて市税のほうも人口減少に合わせて収入のほうが減っていくということで、一般財源が減っていくということを懸念しております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、今後のピーク時というのはどのような年度というものをお考えになっておられますか。

ちょっともったいないです。暫時休憩してもらえますか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午後 1 時 13 分 休憩

午後 1 時 13 分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そしたら、もうそれは後で調べとってください。

その中で、やはりプライマリーバランスというものが今後の大きな課題となってくるのではないだろうかという気がいたしますけれども、そのプライマリーバランスということについて、どのようにお考えになっておられるのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

財政課長。

○財政課長（三根竹久君）

お答えをいたします。

プライマリーバランスにつきましては、財政的基礎収支の黒字化ということを念頭に置いて予算化をしております。逆に言いますと、公債費の地方債の発行額を償還額以内に抑えるということを目指しております。今年度の当初予算でちょっと上回りましたけれども、体育館を継続費にしたということで今年度も黒字化になっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

やはりこの基礎的財政収支、プライマリーバランス、これが今後も継続していくことが一番肝心なことであろうというふうに思っております。このバランスというものが狂ったときには、本当に嬉野市の財政として非常に厳しくなってくるというふうに考えますので、どうか今後の財政運営におきましても、常にそのことを念頭に置きながら努力をしていただきたいということで要望をしておきます。

じゃ、次に行きます。また回ってくるかもしれませんのでね。

次に、健康づくり課で、がん検診、特定健診等の受診率の向上と医療費の抑制というふうなことで——いらっしやらなかったですね。暫時休憩してもらってもいいですか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午後 1 時15分 休憩

午後 1 時16分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

山口要議員。

○17番（山口 要君）

すみません。健康づくり課の課題としては、がん検診、特定健診等の受診率の向上と医療費の抑制というふうなことで答えをもらっております。このことについて、現状と、じゃ、今後どうしたらいいのかということについてのお尋ねをしたいと思います。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（諸井和広君）

お答え申し上げます。

がん検診における受診率については、ほぼ横ばいという形になっておりまして、県下でも中位ぐらいの受診率というふうに考えております。

今後の状況としては、健康対策の課題としては健診事業において若い年齢層の受診率が低く、全体でも受診率が伸び悩んでいるところでございます。病気の症状が出ていない段階で健診を受けていただくためには、市民の皆さん一人一人に意識の向上が不可欠でございまして、自分の健康問題に気づいていただけるような普及啓発に努めて、受診しやすい環境づくりになお一層努力したいというふうに思っております。

また、本市においては、脳血管疾患や心疾患、糖尿病、高血圧などの生活習慣病と言われる疾患の率が高くなっておりますので、治療中であっても疾病コントロールが悪く重症化するケースがございまして、そういった重症化にならないために、生活習慣病の予防、そして食生活改善にも力を入れてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

後段の医療費の抑制ということについて、もう少しお答えをいただきたいと思うんですけども。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（諸井和広君）

お答え申し上げます。

医療費の抑制についてはなかなか難しい部分がございますけれども、嬉野市の医療費については国民健康保険の1人当たりの医療費は県下第4位でございます、28年度の数字でございます。後期高齢者については県下ワースト1位という医療費を抱えておりますので、原因としましては、入院の患者数が多い（「中身はいいですから、今現在の数値だけ教えてください」と呼ぶ者あり）はい。（「医療費、1人当たりの医療費」と呼ぶ者あり）金額ですね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい。

国民健康保険の28年度の1人当たりの医療費は45万9,165円でございます。後期高齢者医療の1人当たりの医療費は124万5,197円でございます。これは3割分を引いた残りじゃなくて、10割分の医療費になります。全体の医療費ですね。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その比率は県の比率としていかがですか。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（諸井和広君）

先ほど申しましたとおり、国民健康保険は県下4位、悪いほうから4位ですね。（「比率、比率、比率です」と呼ぶ者あり）比率。（「はい」と呼ぶ者あり）比率についてはここでちょっと資料がありませんので、後日回答したいと思います。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

総合計画の基本計画において、平成24年度、対県比、県の比較で111.8%を目標値として対県の比率102%という数字が上げられております。そのことについて現状の推移、もう簡単にいいですから、お答えをいただきたい。

○議長（田口好秋君）

健康づくり課長。

○健康づくり課長（諸井和広君）

お答え申し上げます。

目標数値は若干カバーできておりません。ただ、それについては今後とも努力してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に——ちょっと暫時休憩してもらっていいですか。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午後 1 時21分 休憩

午後 1 時22分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

健康づくり課長。（「簡単にね」と呼ぶ者あり）

○健康づくり課長（諸井和広君）

先ほど県との対比の比率のことでお尋ねになったと思いますけれども、109.8%（294ページで訂正）という数字になっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

水道課長、お待たせをいたしました。これ有収率の向上ということでの答えをいただいております。そのことについてもう少し詳しく、有収率の向上でしようけれども、じゃ、そのことについて、どう今後取り組んでいこうとされるのか、お答えをいただきたいと思っておりますけれども。

○議長（田口好秋君）

水道課長。

○水道課長（中村はるみ君）

お答えします。

有収率の向上につきましては、漏水調査等を行い、事前に漏水を発見するというふうなことで、老朽管の更新に努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

やはり有収率をアップするということが経営上の一番の指標、目標にもなってくるかというふうに思っております。

そういう中において、総合計画の中で有収率を83.9%から85%に目標値持っていくというふうな目標値を上げておられます。現状の数値、幾らなのか、お答えいただきたいと思ます。

○議長（田口好秋君）

水道課長。

○水道課長（中村はるみ君）

お答えします。

目標率、目標数値を平成29年度で85%としておりましたが、平成28年度の実績で目標率に達成せず、82.5%となっております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、今後についてまだまだ82%ということは、平成24年の数値が83.9%ですので、それより落ち込んでいるという数値になっているわけですね。だから、そこら辺の、要するに導水管の普及というのが一番問題だというふうに思いますけれども、じゃ、そこら辺について財政上とにらみ合わせながら今後取り組んでいかれると思いますけれども、もう一度そこら辺のアップに向けた考え方というものをお聞かせいただきたいと思ます。

○議長（田口好秋君）

水道課長。

○水道課長（中村はるみ君）

お答えします。

先ほど議員が言われましたように、漏水管の発見というのかなり大きなパーセンテージを占めておると思ます。昨年度の漏水調査で本管の漏水発見箇所が11件となっております。今年度の今現在の漏水で本管の発見箇所が現在19件となっております、今年度は昨年度より上回った件数を発見しているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、今後ともそこら辺の問題について積極的に取り組んでいかれるということですね。

○議長（田口好秋君）

水道課長。

○水道課長（中村はるみ君）

お答えします。

積極的に取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

次に、会計管理者にお尋ねをいたします。

会計課の問題点として、マイナス金利政策における公金管理運用ということでの答えをいただいております。そのことについてお尋ねをしたいと思えますけれども、要するにこのマイナス金利政策というものが実施をされてから4年間ぐらい経過をするわけですね。そういう中において、もうメガバンクにおいても日本ではどうしようもないということで海外へのシフトを行っている状況であります。

そういうことを考える中において、やはり公金の管理運用というものは極めて今後大事な問題になってくるのではないだろうかというふうに思えますけれども、今の管理者の考え方としてどのように思っておられるのか、お聞かせをいただきたいと思えます。

○議長（田口好秋君）

会計管理者。

○会計管理者（池田秋弘君）

お答えいたします。

これにつきましては、もう当市だけの問題ではなくて、全国的な問題というふうに認識しておりますけど、そのことにつきましては数年前から基金の運用につきまして国債等の債権の積極的な活用を行っているところで、それにつきましては昨年度も途中売却等で若干の益も出ておりますので、そこら辺は慎重に今後も活用していきたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

もう以前においては基金をつぎ込めばつぎ込むほど、そこで運用益というものが出てきたわけですね。ところが、近々においては、まさにその運用益は望めないということで非常に今後混乱を来すというふうなことになっております。

そういう面で、リスクをとりなさいとは言いませんけれども、ある程度のところのそこら辺を考えた上での資金運用というものが、やはり国債等を含めて、株式も含めて必要かというふうに思っておりますけれども、再度そこら辺のところについてお答えをいただきたいと思えます。

○議長（田口好秋君）

会計管理者。

○会計管理者（池田秋弘君）

お答えいたします。

現在のところについては、株式等についての運用は私自身は考えておりません。とりあえずある程度国債等で軌道に乗ったところで、あとは政府保証債とか、地方債とか、そういうものもありますので、そこら辺については検討の余地があるんじゃないかと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今後について基金運用を行うことを考えるに、やはりもう本当に、会計管理者、今一生懸命努力をしておられることは重々承知をしております。今後については、よりもっと専門的な知識というものが必要になってくるんじゃないだろうかという気がいたしますので、今後の課題として考えておいていただきたいというふうに思います。

次に行きます。

じゃ、建設・新幹線課。新幹線開通時及び開通後に通過駅にならないための取り組みと（発言する者あり）おんしゃれんやった。そいぎ次の、後で、待機しとってもらって。

○議長（田口好秋君）

はい。

○17番（山口 要君）続

それでは、企画政策課。政策的な取り組みの欠如ということで答えをいただいております。その政策的な欠如というものはどういう意味をあらわすのか、お答えをいただきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

平成26年7月に企画政策課という課の名称になりました。政策とはというところから考えたときに、市政の基本的な方針、それであったり、施策を立案することというのが政策だと思っております。ただ、私、企画政策課長を拝命して以来、企画調整課ではないと、単なる課の調整、業務の調整、そういうものではないということを肝に銘じて業務に携わってきましたけれども、先ほど申しました政策的なところがちょっと弱かったのかなと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

欠如ですか、弱かったんですか、どちらですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

欠如に近い弱いというものだと認識しております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

いや、そこは非常に大事なところであって、弱いのと欠如というのは全然違うわけですね。欠如というのは、要するに、私も辞書を引かせていただきました。欠如というものは、あるべきものが欠けていることというふうに記されております。ですから、欠如ということになると、もう何もしていないとか、まさに欠けているということなんです。弱いというのは、ある程度したけれども、そこでそういうものが弱かったということなので、じゃ、そのためには今後どうしたらいいとお考えですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

ことし2月に古田清悟氏の講演会でありました内容で、マーケティングとマネジメント、この重要性の話をされておりました。マネジメント、企画、プランを立てて、計画を立てて、それを実行して、実行した結果、分析をして、また次の計画を起こすという、このマネジメント能力、これが、今、自治体といえども、非常に重要になってくるのかなと思っております。この解決方法としては、マネジメント能力を高めていくことかなと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そのマネジメントを高めていくというのはどうしたらいいんですか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

まず第一歩としては、今いろんな情報があふれておりますけれども、その情報を的確にま
ずつかんで、その情報をどう嬉野市の事業に組み込んでいくか、そういうところからだと思
っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

やっていく自信はありますか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

自信というか、やっていかなければならないと感じておるところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

非常に難しい問題ではありますけれども、この政策ということが今後いろんな形で展開を
していかないと、実を結んでいかないと、嬉野市の将来のあるべき姿というものに不安がよ
ぎるわけなんです。そういう面で、ぜひいろんな情報を得ながら、それを取捨選択して今
後の政策というものに生かしていただきたいというふうに期待をしますけれども、いかがで
すか。

○議長（田口好秋君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

企画政策課という課の名称に恥じないような取り組みをしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

建設・新幹線課。新幹線開通時及び開通後に通過駅にならないための取り組みというふうな課題を上げておられます。そこにおける取り組み、どういうふうなことを今後していかれようと思っておられるのか、そこら辺をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

平成34年に鉄路がない嬉野市に初めて新幹線の駅ができるということになりますので、駅前周辺のまちづくり、また、温泉街との連携、1回来ていただいたお客様が、ああ、やっぱり嬉野でよかったよねと思っていただいて、またリピーターになっていただけるようなまちづくりを目指していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今おっしゃったのは、まちづくりということでの答えだというふうに思っております。

そういう中において、この意味がよく理解できなかったんですけども、新幹線開通時及び開通後に通過駅にならないための取り組みというふうなこと、それはまた違う問題でもあるんじゃないかなというふうな気がいたしますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

まち自体が魅力がないと、どうしても素通りをされてしまうと、特に34年暫定開業になりますので、そのときにしっかりとしたまちをつかって、一つの観光サイドとの協力等も図りながら、嬉野市独自のツアーとか、そういったものまで企画しながら、やはりお客様に嬉野でおりにいただけると、嬉野温泉を目的地としていただけるようなまちづくりをしっかりとしていくべきだと思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、もう今後についての取り組みとしては大体どのようなことを、少し詳しくお答えいただければいただきたいと思っておりますけれども。

○議長（田口好秋君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えをいたします。

一つの考え方としましては、ほかの新幹線の駅と同じような整備ではなくて、嬉野市独特のような整備を行っていきたいというふうに考えておりますし、また、温泉街と連携をする、また、これは北陸新幹線の開業がなされたとき視察等にも行きましたけれども、大分東京のほうでもPR活動をされたと勉強してまいりました。そういった意味では、やはり大阪方面、関西方面でもしっかりとPRをしていって、嬉野を目的地としてお越しいただくような対策等を考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、いみじくも言われたPRというものが非常に大事であろうと、その前段でのまちづくりというものもありますけれども、そのPR、まちづくりしたときのPRというものが今後非常に大きな問題点になってくるかと思っておりますので、そこら辺については今後よりいい形で展開というものをさせていただきたいというふうに思います。

次に、うれしの温泉観光課ですけれども、回遊性のあるまちづくり、滞在時間の延長ということでの回答をいただいております。そのことについて御説明をいただきたいと思いますけれども。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

回遊性のまちづくり、滞在時間の延長ということで回答をしております。具体的に申しますと、どうしてもやはり今現在お客様増加をしておる状況でございますが、最終的には観光消費額というのがどうしても上がる必要があると考えております。

そういった意味では、滞在時間が長ければ、一概には言えませんが、消費額が増加するというふうなことがあらわれるのではないかとということで、今後取り組むべきこととして上げているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、滞在時間を延長というか、長くさせるためには、どういうふうな取り組みというものをお考えになっていますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの温泉観光課長。

○うれしの温泉観光課長（井上元昭君）

お答えをいたします。

全般的なお話になりますけれども、既存の観光資源の磨き上げももちろんですけれども、新しい観光コンテンツづくりというのも必要かと思います。今回、4月より、茶の交流館もオープンしますし、新幹線駅前のまちづくりの整備等も進んでいる状況でございますので、その部分も含めて回遊性ができるようなシステムができればと思っているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今のことについては、後でまた後段で申し上げたいというふうに思いますけれども、やはりいろんな課のリンクというものが今後必要になってくるわけですね。それは後でまた申し上げますけれども、そこら辺のところをちょっと頭の中に置いていただきたいというふうに思います。

次に、農林課ですけれども、農地の利用集積、集落営農組織等の育成というふうな答えをいただいております。それについての御説明をいただきたい。

○議長（田口好秋君）

農林課長。

○農林課長（横田泰次君）

お答えいたします。

この点については、地域の農地、農業を守るためには、担い手の育成が不可欠とっておるところでございます。現在、全ての農地を、そのうち中間管理機構において10年間の計画の中で8割を集積したいという目標を持ってやっているわけですが、そういう中で、やはりの地域の担い手となる集落営農、あるいは認定農業者等々、一般の農業者も含めてですけれども、その集積を行って、今後、農地を守っていく方法が一番いいのかなというところでございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、認定農業者何人ですか。

○議長（田口好秋君）

農林課長。

○農林課長（横田泰次君）

お答えをいたします。

現在で85名になっておるところです。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

これが後期基本計画においては、平成24年に87人、それから現状ふえていないということですよ、2人むしろ減っている。目標値としては100人ということ平成29年度まで掲げられております。ここまで至らなかった、その理由として、どのようなことをお考えになっておられますか。そのための対策というものについて、どのように取り組まれるお考えなのか。

○議長（田口好秋君）

農林課長。

○農林課長（横田泰次君）

お答えをいたします。

目標値まで届いていないというよりは減ってきている、その要因としては、今まで認定されていた農業者の方がもう高齢化、あるいはそのメリットがないというようなことで、認定の期限が切れて次を更新されなかったというところがございます。

今後についても、新規就農者等は年に数名出てきておりますので、そういう方々も、あるいは武雄のほうでトレーニングファーム等も含めて新規就農者のほうの認定を今後ふやしていければなというところがございます。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

農業委員会事務局をちょっと呼んでおいてください。

その前に、うれしの茶振興課ですけれども、高齢化、後継者不足による生産量の減収及び放棄茶園の増加ということでの答えをいただいております。そのことについて、もう少し

詳しくお答えをいただきたいと思っておりますけれども。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

うれしの茶の現状といたしましては、やはり個人工場の一部において後継者が不足している、また、大型工場、また、共同工場にとっても、生産者の高齢化が進み、後継者の不足も見込まれるということで、こういうことで問題点として上げておるところでございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、結局、そのための取り組みというものについては今後どのように行われる考えですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

やはり高齢化になってくるということは、どうしても生産者の労働力が厳しくなっていく、労働力削減のため、茶工場等の集約、または再編で、生葉の集約化を図っていきたいと考えております。

また、良質茶や高質なお茶を生産するために、J A等関係機関と協力し、労働力と栽培面積の適正化に努めていきたいと考えております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

茶の販売価格についてのお考えはいかがですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

茶の販売価格につきましては、平成16年度をめぐりずっと右肩下がりの現状でございますけれども、やはりこの分につきましても、どうしても生産量が飽和状態にありますので、今後やはり販路、売るところを拡大して生産量を上げ、価格を上げていきたいと考えておるところです。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

後継者等の問題もありますけれども、地域的にはもうほとんど偏ってきているというふう
に考えますけれども、そこら辺のところについてはどのようにお考えになっていますか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えします。

やはりお茶の栽培につきましては、鹿児島、静岡等の平地のところはどうしても面積が多
く、価格も安くできるところだと考えております。こっちの中山間地の嬉野につきましては、
今後やはり良質なお茶をつくりまして価格を上げていきたいというふうを考えているところ
です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

私が言ったのは、嬉野市の後継者ということでの地域的に偏っているんじゃないかなとい
うふうなことも含めて言ったわけなんですけど、そこら辺についていかがですか。

○議長（田口好秋君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えします。

個人で面積を多く嬉野市内でもされている方につきましては、単価もよくされておると思
います。

あと、やはりどうしても山間地の厳しいところがありましたら、なかなか労働力も不足し
て、後継者もないという状況ですので、そのことについてはまた今後いろいろと関係機関
等と考えていきたいと思っております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そのところなんですよね。いろいろ考えていきたい。じゃ、いろいろと考えていく中で、
どう取り組んでいくかということが、そのことを考えていけないわけですよ。た
だ単に考えるだけではどうしようもない。そういう問題点があるから、じゃ、このような形
でこの問題について取り組んでいこうという姿勢が必要だというふうに思いますので、ぜひ

そこら辺のところを肝に銘じておいていただきたいというふうに思います。

農業委員会事務局。高齢社会の顕在化、後継者、担い手の不足ということでの答えをいただいております。そのことに対する御説明をいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（白石伸之君）

先ほど農林課長のほうからの答弁もありましたように、担い手としては認定農業者、先ほど答弁にありましたように、年々数が減ってきております。認定農業者の方々、この減少に伴って担い手の不足、あと高齢化がどんどん進んでおまして、議員の皆様にもお目にとまっているかと思えますけれども、農地が太陽光パネルの設備に変わっていく、これはもうみずから耕作管理ができないので、荒れることを防ぐために転用したいというような、そういう動きが今ちょっと加速化しているということで、農地を守っていくためには、担い手、後継者、これを増加させていかなければならないと、ここが一番の問題点だというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

先ほど申しましたけれども、農業委員会事務局と、そして、うれしの茶振興課、全く同じ課題なんですね、問題点として出されているのが。それは農林課にも恐らくつながってくるのだと。そういう意味で、やはり3課の連携というものが、お互いその垣根を越えて、課の垣根じゃなくして、その垣根を越えた形で問題点を洗い出して、じゃ、その3つの課でどういうふうに取り組んでいこうかというふうな形に進んでいかなければだめだというふうに思います。ぜひ今後についてはそこら辺の連携を図りながら、政策実現に向けて取り組んでいただきたいというふうに要望をしておきたいと思います。

次に行きます。

次に――市民協働推進課をちょっと呼んでおいてください。

市民課。戸籍記載、戸籍の発行、住民基本台帳入力等の経験者の育成というふうに答えをいただいておりますけれども、この経験者の育成ということ、そのことについて、どう取り組んでいかれるお考えなのか、どのようなお考えを持っておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市民課長。

○市民課長（小森啓一郎君）

お答えいたします。

戸籍記載届書受け付け、戸籍の発行、住民基本台帳の入力等の経験者の育成ということですが、これについては一番行政のベースになる場所であると思っております。たまたま昨年度から今年度にかけて杵藤分会、杵藤地区の分会がございまして、その会長にうちの谷口市長が就任していただいております。その中で各地区の集約ですね、各地区からの問題の集約、それと、あと生涯戸籍が大変多うなっておりますので、そういった面でいろいろな資料を読み込んで職員の資質を上げていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、経験者の育成ということは、経験者の育成ですよ、それ新人の育成じゃなくして、新人を育成して経験者にしていくわけですので、その経験者の育成ということを書いてあったので、どのような意味かなということでお尋ねをしたんですよ。

○議長（田口好秋君）

市民課長。

○市民課長（小森啓一郎君）

今、経験者がなかなか交代する時間が早くなっているというふうなこともございますので、そういったところをどうやって補っていくか、私たちが新人に求めているのは、できるだけ多くの事例に触れていただいて、そういった経験を少しでも積ませていきたいと、そういうふうな形を考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それは人事のローリングにもつながってくることなんですかね。

○議長（田口好秋君）

市民課長。

○市民課長（小森啓一郎君）

お答えいたします。

人事のローリングというものにも若干つながってまいるかと存じます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

総務課、そのことについてはどのようにお考えですか。部長でもいいですけども。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（辻 明弘君）

お答えいたします。

この最近、近年が、退職者が非常に多くあってございますので、その関係でどうしても数年間で異動せざるを得ないというような事情もあっております。

そういった中で、やはり先ほど市民課長申し上げましたとおり、経験を積み重ねた経験者を当然配置していくことに今後取り組んでいかなければならないと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

人事まで私が立ち入ることはできないわけなんですけれども、そこら辺のところは、今後の人事交流等を含めて、そして、以前申し上げたグループ制ということについても、もっともっと検討をしていただきたいというふうに要望だけしておきたいというふうに思います。

次に行きます。

市民協働推進課で、地域コミュニティ活動の状況に関する市民満足度についてということでの回答をいただいております。その分に通ずる説明をいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

各地域コミュニティ運営協議会は現在10年を経過いたしました。市民満足度の目標値を設定しておりましたが、若干その目標値に達していなかった。この問題点を上げさせていただきます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

このコミュニティづくりについては、市長も大体確立をしてきたというふうな答弁を以前からされております。これが基本計画の中を見ますと、市民満足度、これを平成24年にされたときに、28.5%、そして、平成29年の目標値として35%という数値が上げられております。

この調査は今なさいましたか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

28年度の実績値におきまして、33.3%の市民満足度ということで調査をしております。差として1.7%ということで、若干目標値に届いていなかったというふうに考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、そこら辺の問題点というものを洗い出された経緯がありますか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

今回このように市民満足度が若干数値が低かったということに関しましては、原因といたしましては、これまで基本方針及び各コミュニティにおける地域計画において、コミュニティを知っていただいて参加していただくということをまず第1の目標として取り組んできたため、満足度に結びつくような取り組みがおくれたことによると思われま。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、そのことに対する今後の取り組みはどうお考えですか。

○議長（田口好秋君）

市民協働推進課長。

○市民協働推進課長（筒井八重美君）

お答えいたします。

今回、地域コミュニティ推進第2基本方針というのを策定いたしております。12月に配付予定としておりますが、これを指針として、最近の新聞記事等でも見かけますけれども、自助、共助、公助の補完性の原理に基づいて、地元の問題解決に向けて具体的に見える形で必要な活動や事業をさらにふやす取り組みを、地域計画というのを各コミュニティごとに今後立てていただく予定ですが、地域のニーズに合った必要なものを見きわめて、そういう計画を立ててもらい、新たな挑戦に向けて推進していただくことによって解決していくも

のと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

ぜひ御努力いただきたい。

次に行きます。

税務収納課で、市税及び国民健康保険税収納率の向上と、当然、税務収納課としてはそういうことだろうと思えますけれども、嬉野市はワーストにそれぞれが入るというふうなことで、じゃ、何が一番問題だというふうにお考えになっていますか。

○議長（田口好秋君）

税務収納課長。

○税務収納課長（小國純治君）

お答えします。

滞納の原因は何かということなんですけれども、財産調査ずっとやっておりますけれども、国保税に関しましては滞納者の半分ほどが減免の対象者になっているということで、低所得者階層が多いということが原因ではないかと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その問題だけで片づけていいんですかね。

○議長（田口好秋君）

税務収納課長。

○税務収納課長（小國純治君）

一つの原因としては低所得者、それと、あとは財産等の調査をやって収納率の向上と挙げておりますけれども、今の分析としてはそういったことで私のほうは分析をしております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

分析して、じゃ、次の対策というものについてはどのようにお考えですか。

○議長（田口好秋君）

税務収納課長。

○税務収納課長（小國純治君）

対策としましては滞納整理の徹底と、それに関して進行管理を行い、徴収率の向上に努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、次に行きます。

学校教育課。学習指導要領の改訂にかかわる教育内容の改変への対応ということでの答えをいただいておりますけれども、もう少し御説明をいただきたい。

○議長（田口好秋君）

学校教育課長。

○学校教育課長（徳永 丞君）

お答え申し上げます。

学校教育課においては、学習指導要領改訂の対応が喫緊の課題と捉えております。新学習指導要領の基本的な理念、生きる力の育成というところはこれまでのものを引き継ぐものとなっておりますけれども、具体的に実際の学校現場では道徳の教科化、特別の教科道徳ということになる、それから、小学校の英語科の時間数の増加など、クリアすべき課題が幾つか上げられます。そういうところの解決が喫緊の課題だというふうに捉えております。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、そのことに対する取り組みというものについてはどのようにお考えですか。

○議長（田口好秋君）

学校教育課長。

○学校教育課長（徳永 丞君）

本年度春から、各学校の主体性に任せて、好きにしていよということもできないことはないんですけども、嬉野市は一斉にやろうと、同じ方向で全部小・中学校行きましょうということで、各学校から教育課程をつかさどる教務主任の先生たちに集まってもらって、新たな学習内容推進部会という部会を立ち上げて、その部会でどういうふうに平成32年、平成じゃなくなると思いますが、32年から市内の学校をどのようにやっっていこうというのを、今、話し合っている最中でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

この問題、非常に今後の課題であろうというふうに思っておりますので、余り焦らず、急がずということを中心に置いて御努力いただきたいということで要望をしておきたいと思えます。

教育長、簡単にいいですので――出していなかったからいいです。

次に、子育て支援課ですけれども、障がい児保育事業、障がいを持つ児童の入所が著しく増加している状況のため、委託料が急増をしているという回答、答えをいただいているわけなんですけれども、これが一番の担当課としての課題ですか。私はもっと別な課題があるんじゃないかなという気がいたしておりますけれども。

そして、ここでこういう形で障がいを持つ児童の入所が著しく増加している状況のため、委託料が急増していると、こういう答えは私は見たくもなかった。こういうことにすると、ある意味での、私はそのことはわかるにしても、このことを課としての問題として取り上げるべきものじゃないというふうに思いますけれども、いかがですか。これ、こういうふうに書くと、ある種の障がいに対する偏見としか言いようがないんですよ。

○議長（田口好秋君）

子育て支援課長。

○子育て支援課長（大久保敏郎君）

お答えします。

この障がい児保育事業を問題点として上げた理由としては、ちょっと私の勘違いかも知れませんが、総合計画の後期基本計画に掲げている中でちょっと上げるのかなと思って、その中の一つとして、実際これが今、委託料がふえているということで、これを安易に上げさせてもらったということでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

捉え方として非常にイージーであるしね。もうちょっと私は、子育て支援課における、今現状におけるもっと課題というものがあるはずだというふうに思います。

じゃ、ほかの課題は何かないですか。

○議長（田口好秋君）

子育て支援課長。

○子育て支援課長（大久保敏郎君）

お答えします。

先月に来年度の学童クラブの利用の入所の申し込みの受け付けをしたところですが、各学童クラブが定員をオーバーしているところが結構出てきておりまして、ちょっと受け入

れが困難な状況になっているという問題点はございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

もう少し問題点の整理というものについては、より慎重に精査をしていただきたいということを要望しておきます。

次に、環境下水道課。汚水処理人口普及率の向上ということで上げておられます。そのことに対する御説明をいただきたい。

○議長（田口好秋君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（副島昌彦君）

お答えいたします。

総合計画の後期基本計画の中で、平成29年度におきまして公共下水道の供用開始区域を277ヘクタールとうたっております。現在の予定でまいりますと、今、平成29年度なんですけど、265.9ヘクタールが年度末で供用開始の区域となる予定でございます。

これに対して、汚水人口の普及率が28年度末で62.2%という数値を持っております。うちの目標が平成32年度末におきまして70.2%ということでございますので、もちろん供用開始をしないと普及率も上がらないということで、これらの数字を上げるごとき努力したいと思っておりますのでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、その中で、料金のことなんですけれども、公共下水道料金の見直しということについては今後どのようにお考えになっておられますか。

○議長（田口好秋君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（副島昌彦君）

前の議会でも何回かその辺にちょっと触れたと思いますが、今現在、農業集落排水事業の料金改定に取り組んでいるところでございます。この間の御質問もありましたときに、平成31年4月1日を目標に公共下水道料金等料金統一を行う予定で、今、作業を続けているところでございます。これによりまして、基本的には、公共下水道、農業集落排水事業、それから、市営浄化槽事業という料金体系は、厳密なところ少しは違うんですけど、基本線は全く

同じになります。まず、これを平成31年4月1日に料金を統一いたしまして、それから全体を上げたいというふうに計画をしているところでございます。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

はい、わかりました。

もう一つ、文化・スポーツ振興課で、これ詳しく回答をいただいております。その中で、集客に苦心をしているというふうなことが末尾に記されております。この問題を解決しなければ、目標値達成には難しいということで、じゃ、集客対策について今後の取り組みというものをどのようにお考えになっておられるのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

集客の今後の課題といたしますか、どのような方向で進むかということですがけれども、既存事業を見直しまして、ニーズを正しくつかみ、魅力ある新規講座とか、教室、イベントを開催することを考えていきます。

また、民間のノウハウ等が活用できれば、民間への業務委託も考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

民間の活用といたしますか、その辺のところについてはどのようなことですかね。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

現在、あるイベント等は広告センターとかというふうな民間の企業さんに委託をして開催しているのもあります。そのようなものを、ほかの方面の今の事業のほうにも活用できないかというふうな意味で、ここに回答をさせていただいたところです。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それに対するめどはありますか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

これは当然、予算の裏づけがないとできませんし、格安でやってくれるとかというの、今後話し合い等をしていきながら、今たまたま先ほど言いました企業のほうのお願いというふうなことで言っておりますけれども、ほかにないかというのも当然探していかなければならないというのも一つの課題だというふうに思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

結局、投資ということにもなるわけですね、ある意味ではね。だから、投資によって効果が生まれてくるとするならば、多少の投資をしていくべきではないだろうかというふうに思いますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

当然、議員御指摘のとおりだというふうなことで思っておりますので、当然、何でもかんでもというわけではないんでしょうけれども、魅力ある、これだというものについては、そのようなことも検討していかなければならないというふうに思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今、1課残して、あと19課全部させていただきました。これが傾斜配分ではなくして、私なりに均等配分の中で御質問をさせていただいたところでもありますけれども、この中で私が一番大事なことは、それぞれ各課がこのような問題点を抱えておられる、それがあつわけなんですよ。そのことについて、私は執行部の皆さん方が共有をする必要があるというふうに思います。先ほど来申しますように、例えば、農林課、そして農業委員会事務局、うれしの茶振興課、あるいはまた、うれしの温泉観光課、建設・新幹線課、企画政策課、それぞれが手を結んでいかないとできない部分なんですよ。

そういうことを考える中で、政策会議というものがあります。そこで一つお尋ねしたいのは、これはたしか以前は政策会議要綱というものであったような気がいたしますけれども、現在においては嬉野市行政会議規程というふうになっておりますけれども、これ最初からそうでしたかね。

○議長（田口好秋君）

暫時休憩します。

午後 2 時 9 分 休憩

午後 2 時 10 分 再開

○議長（田口好秋君）

再開します。

総務企画部長。

○総務企画部長（辻 明弘君）

お答えいたします。

その要綱というものは、私はちょっと存在を知っておりませんが、先ほど議員申されたとおり、行政会議の規程で設けているということになります。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

たしか私は、以前、企画政策課が体をなしていないというふうな一般質問をした経緯があります。そのときに私は例規集ですぐ見つけることができたんですよ。今回、なかなか見つけることができずに、最終的に、もうネットでも、その例規集でもわからなくて、これが行政会議規程という中で見つかったので、今そのことをお尋ねしているんですよ。

それはいいとしても、副市長にお尋ねします。

政策会議議長ですよ、あなたがね。今、これによりますと、政策会議というものは、政策会議の議長は副市長をもってというふうになっております。今、政策会議という内容というのはどのようなものですか。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

お答えいたします。

基本的には1週間の月曜日でございますので、市長があちらこちらで視察等、会議等に行かれた内容を言っていております。それと、懸案事項として、その次、私が言って、教育長がして、あと各部長から何かないですかという形でしております。

ただ、もう少し詰めなくちゃいけないのは、政策調整会議を事前にやって、案件をそこでたたいて、最終的にこの政策会議で調整をして、どのようにやるかという形をとっています。今の体制はそういうことをございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、あなたは、今、それぞれ各課に問題点を指摘いたしました、お聞きをいたしました。そのことについては、どの程度把握をしておられましたか。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

お答えいたします。

今回、議員がこういう形で問題点という形でお尋ねになりましたけれども、この問題については、ある程度共通の認識ということで私はわかっていたつもりでございませうけど、小さいことまではわかりませうけれども、こういう問題があるというのは当然認識いたしております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

じゃ、そのことについて、どのような調整をしようと思っておられましたか。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

お答えいたします。

このことについて全て、一つには、非常にこういう問題があるときは、基本的には人事の配置あたりがまず出てくるんじゃないかということで、その辺は十分配慮しております。まだ確かに的確な配慮になるかどうかはわかりませうけれども、そういう形でございます。

それと、近々の問題については、早速取り組むような形で市長からも指示をいただいております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

総務企画部長は、この問題についてはどのように捉えておられましたか。

○議長（田口好秋君）

総務企画部長。

○総務企画部長（辻 明弘君）

お答えいたします。

今回上がってきた問題点というのは、全部は把握は私もしておりませんでした。ただ、まさに先ほど副市長申されたとおり、人的な配置とかそういった面の中で、この課題等はあったものと思っております。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

もう先ほどから何回も申し上げますように、やっぱりこのような問題点というものをそれぞれの執行部の皆さん方が共有をして、それで例えば、以前グループ制のことについても申し上げましたけれども、こういう調整会議等においてもやはり各課の連携というものを今後十二分に図って行って、より具現化に向けて進めていくべきではないだろうかというふうに思いますけれども、副市長いかがですか。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

お答えいたします。

先ほどの御指摘の件については早急に対応したいと思います。

ただ、個別な案件になりますと、まず、前に調整会議をすべきだろうと思っておりますので、そこで改めて問題提起をしていただいて、ここでたたいて、どのような方向に持っていくかという方向をとりたいと思います。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

政策調整会議の中で、もうほとんどが政策会議、政策調整会議も副市長がリードをしておられます、この規程を見ますと。やはり私は連絡会議かれこれも含めて、副市長のポジションというのが非常に重要な役割を持つてくる、あなたの力量いかん、あるいは運営いかんによってどうにでも変わってくるというふうに思いますけれども、いかがですか。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

そこまでおっしゃられても、確かに資質的に問題がある点もあるかと思いますが、全てに万能ではございませんので、できるだけ努力したいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

せっかくこうして政策会議、政策調整会議、特に政策会議ということで名を打って例規に上がっているわけですので、よりこの政策会議という中身を充実させながら今後の政策に反映をしていただきたいというふうに思いますけれども、再度副市長のお答えを聞きたい。

○議長（田口好秋君）

副市長。

○副市長（中島庸二君）

お答えいたします。

おっしゃったように頑張っていきたいと思います。

以上です。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それでは、1番目の市長に対するお尋ねをしたいと思います。

市長、今まで本当に私はもうあなたと6期22年、その中でもう70回以上議場で相対峙をさせていただきました。もうこれが最後の機会となるわけでありますけれども、私は、谷口町政、市政運営というものについて、私が見たときに、頑固さはあるけれども、多少大胆さに欠けた部分というものもあるかもしれませんけれども、おおむね私はこの20年間、手がたくまどめて行政運営をされてこられたというふうに思っております。

それこそ、この22年間というものについては休祭日返上で、極端に言うと家庭を省みず頑張ってこられたというふうに改めて敬意を表したい。体力の強さというものも、先ほど先般の議会においてもおっしゃっておられましたけれども、恐らく昨年5日間のインフルエンザが初めての病欠ではなかったろうかなというふうに思っております。

そういう意味で、そういう意味でというか、本当にひとにやさしい政策ということ、まさにほかにも弱者の立場に立った市政運営をされたと、そのとおりでございますし、常に相手に対して敬意を払いながら私はしてこられたというふうに思っております。

そういう中において一つだけ、先ほどの質問にもありましたけれども、スピードアップし

た地域防災ということが一つ気になったということでありますけれども、再度そのことについてお答えをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

地域防災の考え方について、最近非常に学ぶところが多いわけでございまして、また、旧塩田町、旧嬉野町の歴史を見ましても、いわゆる平成の初年度から、それ以前は本当に災害との戦いだったというふうに思っています、私が最初に仕事をさせていただいたのもダムづくりとか、トンネル工事とか、そういうのが多かったわけで、まず、防災とか安全とかいうものに大きな時間を費やさせていただいたわけですが、今、実は御承知のように、東北の震災が発生しましてからもう6年を過ぎましたし、また、熊本、今回の朝倉と、非常に災害が頻発をいたしております。そういう中で、この災害と戦ってきたまちとして、やはりしっかりしなくちゃならないということで職員を東北に2名、熊本には職員と教職員が1名ですね、2名行っているわけでございますけれども、小さなまちですけれども、できる限りのことはしていきたいというふうに思っております。

そういう中で、いろんな地区を私も見させていただきましたけれども、最終的にはやはり地域住民が力を合わせて安心・安全を確保する必要があるというのが、残念ながら今の結論になっております。そういうことをございますので、今のいろんな災害対策の基本は、まず、安全に逃げるということ、今、基本になっているようでございまして、そういうことを考えてみますと、まだまだ地域全体の防災に対する考え方が、地域防災の訓練はもちろんやっておりますけど、平成になりましてから約30年近く災害がなかったと、非常に幸いですけれども、しかしながら、そのことが本当にいざ来たときに嬉野市民一人一人の方が命を守れるかどうかというのが非常に今心配になってきておまして、そのところがやっぱりもっとスピードアップをしてしとけばよかったなという反省点がありまして、そのところを今強く感じておるところでございまして、退任はさせていただきますけど、次の方はぜひそういうところを力を入れていただいて、一人一人の命をもっと守るということを自治体の責任としてはもっと考える必要があったなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

こういうことを申し上げるのは失礼かもしれませんが、あなた自身、この22年間を振り返っての再度感想を求めますし、そして、自分自身で自己採点をして大体何点ぐらいだ

ったのかと、100点ではないでしょうから、そこら辺でどのようにお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

○議長（田口好秋君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

昔からそういうふうに全力投球をやろうということで頑張ってきたわけでございますので、私自身は、点数は別にして、全力投球をさせていただいたと、そのことを御了解いただいた市民の皆さんとか議会の皆さん方のおかげだなと、改めて思っておるところでございます。

私の評価というのは後世の人がしていただくかどうかということですけど、最終的には今までの塩田町の歴史とか、嬉野の歴史とか、いろいろ読み返してみますと、やっぱり真実は歴史の中にあるという言葉がありますように、相当時間がかかってから、あのときの町長、市長はこう考えたのかなということぐらいを市民の方がわかっていたいただければ、それでいいんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田口好秋君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

もう本当に真面目に真剣に私は取り組んでこられたというふうに思っております。

前回の議会でも申し上げましたけれども、今、新幹線の嬉野温泉駅が実現をしようとしております。これはまさに私は今ここで本当に申し上げておきたい。あなた自身の最大の功績であったろうと。あなたがそのいろんなコネクションというものがなかったなら、武雄温泉駅だけでとまっていたはずだというふうに私は確信をしております。そのことだけは私は議場にいる皆さん方、そして、市民にもそのことを伝えておきたいというふうに思っております。

もう本当に市長、22年間お疲れさまでございました。大変、改めて敬意を表したいと思います。

最後になりますけれども、あと残り時間も9分となってまいりました。カミソリ政治家として著名であった後藤田正晴が「政と官」という著書の中で、以前にも申し上げたことがあります、役人が一つの政策に固執する思い上がりというものを戒めるとともに、また、諫言、目上の人をいさめるという諫言できる指導ということをも問うております。それは役所に限らず、どんな世界においても、いざというときに上司やトップに諫言をできなければ組織はだめになるということでもあります。そのことは反面、その職場というものが風通しのいい職場という組織というものの裏返しでもあります。今後とも、嬉野市役所がそのような職

場であらんことを期待しておきたいと思います。

さらに加えて、ダーウィンが、生き延びる者は最も強い者ではなく、変化できる者だという言葉も残しておりますし、また、アメリカ上院議員のサンダース議員は、歴史を見て、今までもこれからも変化というものは決して短時間にやっつこないのだということを理解してほしい。それは一晩で起きることではなく、常に戦い続けねばいけないということをも言っております。

どうか嬉野市が今後もチェンジ、変化に対して果敢にチャレンジしていかれ、そして、そのことを忘れず、サステナブルな都市として生き残っていくために、執行部、そして職員一同手を携えて邁進をしていかれることをお願いして、最後の締めくくりとしたいと思います。

執行部の皆さん方には長年にわたって苦言を呈してまいりましたが、これも皆様方への叱咤激励の意味であったということを御理解していただきたいというふうに思います。

市長、副市長、そして教育長、執行部、さらには全職員の皆様方、本当にお世話になりました。ありがとうございました。この場をかりて、今まで御支持、御声援を賜った市民の皆様方にも厚く御礼を申し上げ、そして感謝を申し上げ、私の最後の一般質問とさせていただきます。

終わります。（拍手）

○議長（田口好秋君）

これで山口要議員の一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。皆様、大変お疲れさまでした。

午後 2 時 28 分 散会